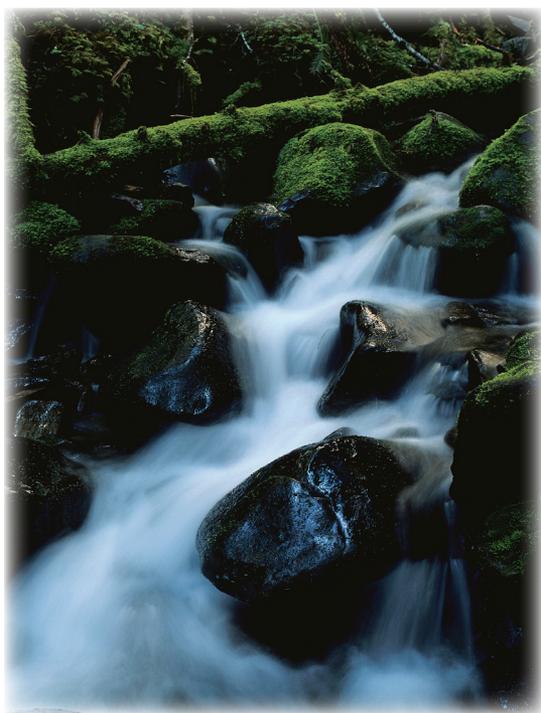


永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2014年 7月

「どのように聖書を調べるか」「教会においてキリストを映す」

「第二天使のメッセージ『ぶどう酒とバビロンの娘たち』」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「どのように聖書を調べるか」 4

イエスの聖書研究

朝のマナ

「教会においてキリストを映す」 11

キリストを映して

現代の真理

「ぶどう酒とバビロンの娘たち」 74

三重のメッセージ - 第二天使のメッセージ -

力を得るための食事

「キヌアの豆乳ドリンク」 82

お話コーナー

「調和のうちに建てる」 84

教会

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話：0494-22-0465

FAX：0494-40-1045

【高知集会所】

〒780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2

電話：088-831-9535

【沖繩集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話：0980-55-8136

アクセス

ホームページ：<http://www.4angels.jp>

メール：support@4angels.jp

発行日 2014年6月30日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Dreamtimes on front cover; Getty Images on page 7

霊的争闘と永遠の運命

キリスト者の友よ、サタンはあなたの弱点を知っている。だからイエスにしっかりとつかまっていなさい。神の愛のうちにつながっているならば、すべての試練に耐えることができる。キリストの義だけが、世界を襲っている悪の潮流をとどめる力をあなたに与えることができる。信仰をあなたの経験の中に持ち込みなさい。信仰は、すべての重荷を軽くし、すべての疲労を和らげる。今不可解な摂理は、神に絶えず信頼することによって解決することができる。神がお定めになった道を、信仰によって歩きなさい。試練は来るであろう。しかし前進しなさい。これはあなたの信仰を強め、あなたを奉仕に適した者にする。聖なる歴史の記録は、われわれがただそれを読んで驚くだけではなくて、古代の神のしもべたちの中に働いたのと同じ信仰が、われわれのうちにも働くために書かれたのである。主の力の通路となる信仰の人々がいるところならどこでも、主は今も同様の著しい方法でお働きになるのである。

ペテロと同様にわれわれに対しても、「サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った」という言葉が語られている（ルカ 22:31, 32）。キリストは、ご自分が身代わりになって亡くなられたその人々をお捨てになることはない。われわれは彼を去り、誘惑に打ち負かされることであろう。しかしキリストは、ご自分の生命という贖いの代価を払われた人から、離れ去ることはおできにならない。もしわれわれの霊的視界が開かれるならば、穀物の束をのせた車のように圧さえられ、悲しみに打ちひしがれてうなだれ、失望して今にも死んでしまいそうになっている魂を見ることであろう。またわれわれは、天使が急いで飛んでいって、こうした試みに遭っている人々を助け、彼らを取りまいて悪の軍勢を追い返し、彼らの足を確かな土台の上に置いているのを見るであろう。二つの軍勢の間の戦いは、この世の軍勢の戦いと同様に現実のものである。そして霊的争闘の結果いかに、永遠の運命がかかっているのである。（国と指導者上巻 143, 144）

「どのように聖書を調べるか」

福音宣伝者 1893 年版 p125 ~ 131 (1)

わたしたちは聖書が教えていることを理解するために、どのように聖書を調べるのであろうか。わたしたちは悔いた心と教えを受ける祈りの精神をもって神のみ言葉の探求に臨まなければならない。わたしたちはユダヤ人のように、自分自身の考えや意見が無謬だと思ってはならない。またカトリック信者のようにある人々だけが真理と知識の保管者であって、人々は自分自身で聖書を探る権利がなく、教会の父祖たちから与えられた説明を受け入れなければならないと思ってはならない。わたしたちは自分たちのあらかじめ持っている意見を支持する目的ではなく、ただ神が何と言われたかを学ぶという一つの目的をもって聖書を研究すべきである。

ある人々はもしたった一つの点においても自らが誤っていたことを認めるなら、ほかの人々の考えが真理の論理全体を疑うようになるのではないかと恐れてきた。であるから、彼らは探求は分裂と不一致に向かう傾向があるため許されるべきではないと感じる。しかし、もしそのようなことが探求の結果だとすれば、早ければ早いほど良いのである。もし自分たちのみ言葉を信じる信仰が聖書の調査のテストに堪えないようなものであれば、それが早く明らかになるほど良い。なぜなら、そのとき彼らに自分たちの過ちを明らかにする道が開かれるからである。わたしたちは一度とった立場、一度擁した考えはどんな状況にあっても放棄すべきではないという考えを抱くことはできない。無謬なる方はおひとりだけである。すなわち、道であり、真理であり、命であるお方である。

偏見が真理の受け入れないように思いを妨げることを許す人々は神聖な啓発を受けることはできない。しかしなお、聖書の見解が提示されると、多くの人はそれは真理であろうか、神のみ言葉と調和しているであろうかは尋ねな

いで、それはだれによって擁護されているであろうかと尋ね、自分たちを満足させる媒体を通してもたらされるのでなければ、それを受け入れないのである。あまりにも徹底的に自分自身の考えに満足しているために、彼らは学ぼうという願いをもって聖書の証拠を調べようとしない。かえって自分たちの偏見のために興味を持つことを拒むのである。

主はしばしばわたしたちがこのお方に期待してもいなかったところで働かれる。このお方は、ご自身の選択された器を通してご自分の力を表し、わたしたちを驚かされる。その一方、わたしたちがこの人々を通して光がもたらされるに違いないと思っている人々のそばは通り過ぎられる。神はわたしたちがそれ自身の功績、すなわちそれが真理であるがゆえに真理を受け入れることを望んでおられる。

聖書は人間の考えに合わせるために解釈されてはならない。彼らがそれらの考えをどれほど長く真理として持っていたとしてもである。わたしたちはコメント付記者の意見を神のみ声として受け入れるべきではない。彼らはわたしたちと同様に間違いを犯している。神は彼らと同様にわたしたちにも論理的思考力を与えて下さった。わたしたちは聖書をそれ自身の解説者とすべきである。

新しい見解を提示することにおいて注意する

すべての人は聖書の新しい見解を提示する前に、それらを徹底的に研究し、それらを聖書から十分に支持する準備ができるよう慎重を期すべきである。神がこの時代のための特別なメッセージを与えておられるはつきりとした証拠なしに、不一致を生じさせるようなことは何一つ持ち込んではいない。

しかし、真理であることを拒むことがないように気をつけなさい。わたしたちの民には人間に頼り、肉を自分たちの腕とする大きな危険があった。自分で聖書を調べること、あるいは証拠を量ることが習慣になっていない人々は、指導者に信頼し、彼らのなす決定を受け入れ、こうして多くの人々は、これらの指導的な兄弟がそれらを受け入れないと、まさに神がご自分の民に送られたメッセージそのものを拒むのである。

だれも自分には神の民のための光がすべてであると主張すべきではない。主はそれを許してはおられない。このお方は「見よ、わたしは、あなたの前に、だれも閉じることのできない門を開いておいた」。たとえもし、すべての指導者が光と真理を拒んだとしても、門はなお開いている。主はこの時代のためのメッセージを民に与える人々を起こされるのである。

真理は耐える

真理は永遠であり、誤謬との戦いはその強さを明らかにするだけである。わたしたちは、真理を知りたいと望んでいることを信じるに足るだけの人々と聖書を調べることを決して拒むべきではない。例えば一人の兄弟があなたと異なる見解をもってあなたの所へ来て、一緒に座って聖書の中のその点を調べようと提案するとする。あなたは偏見に満たされて、立ち上がり、彼の言うことを公平に聞くこともせず、その考えを責めるべきであろうか。唯一正しい方法は、クリスチャンとして座り、神のみ言葉の光のうちに提示された立場を調べることである。それによって真理は明らかにされ、誤謬は正体が現れる。彼の考えをあざ笑うことは、それが間違っていたとしても彼の立場を少しも弱めることはないし、あるいはもしそれが正しかったとしても、あなたの立場を強めることにはならない。もしわたしたちの信仰の柱が調査のテストに耐えられないとすれば、それを知るべき時である。わたしたちの間にパリサイ的な精神があってはならない。

敬神の念をもって研究すべき聖書

わたしたちは神のみ前にいることを感じ、敬神の念をもって聖書研究に臨むべきである。軽々しきや軽率さは一切わきへ置くべきである。み言葉のある部分は容易に理解できる一方で、他の部分の真の意味はそれほどすぐに見極めることができない。忍耐強い研究と瞑想と熱心な祈りがなくてはならない。すべての聖徒は、聖書を開くときに、聖霊の啓発を求めるべきである。それ

は与えられるという約束は確かである。

聖書の探求に臨む精神が、あなたの傍らで助ける者の性質を決める。光の世界からの御使たちは心のへりくだりのうちに神聖な導きを求める人々と共にいる。しかし、もし不敬な思いで聖書を開き、自信を感じて、心が偏見に満ちているなら、サタンがあなたの傍らにいて、神のみ言葉の率直な言葉をゆがんだ光のうちにおくのである。

自分と違う人々に向かって、軽薄に語ったり、皮肉を言ったり、また嘲笑さえする人々がいる。ほかの人々はどんな新しい見解に対しても反対を並べ立てる。そしてそれらの反対が明白な聖書の言葉によって答えられると、彼らは提示された証拠を認めないし、自ら納得しようとしめない。彼らの質問は真理に到達するという目的のためではなく、単に他の人々の思いを混乱させるための意図しかない。

ある人々は真理に関して思いを困惑させることが知的鋭さと卓越さの証拠だと考えている。彼らは議論の巧妙さに訴え、言葉をもてあそぶ。質問を訪ねることにおいて不正な利点を用いる。自分たちの質問が適正に答えられると主題を変えて、真理を認めることを避けるために他の点を持ち出す。わたしたちはユダヤ人を支配していた精神にふけることがないように気をつけるべきである。彼らはキリストを学ばない。なぜなら、このお方の聖書の説明が、彼らの考えと一致しないからである。そこで、彼らはこのお方を偵察し、「イエスの口から何か言いがかりを得ようと、ねらいはじめた」。恐るべき救い主の非難がわたしたちの上にもたらされることのないようにしよう、「あなたがた律法学者は、わざわいである。知識のかぎを取りあげて、自分がいらないばかりか、はいろいろとする人たちを妨げてきた」。

単純さと信仰のうちに

答えることが難しい質問をするのに学識や能力はさほど必要ない。子供も最も賢明な人を戸惑わせるような質問をすることができる。この類の争いに携わらないようにしよう。キリストの時代に蔓延していたのとまさに同じ不信仰が

わたしたちの時代にも存在する。今も当時のように、昇進や人の賞賛を願う心が人々を真の信心の単純さから導き出している。霊的な誇りほど、危険な誇りはない。

青年たちは聖書を自分自身で調べるべきである。彼らは経験において古い人々が真理を探るので十分であると、またより若い者たちは彼らから権威として真理を受け入れることができると感じるべきではない。ユダヤ人が国家として滅びたのは、彼らが自分たちの役人や祭司や長老によって聖書の真理から引き出されたからである。彼らがイエスの教訓を心にとめて、自分自身で聖書を探っていたら、彼らは滅びなかつたのである。

わたしたちの隊列にいる青年たちは牧師たちがどのような精神で聖書の探求にあたっているかを知るために見張っている。彼らは教えを受ける精神を持っているか、証拠を受け入れるほど謙遜か、そして神が遣わすために選ばれた使命者から光を受けるかを見ている。

わたしたちは自分で真理を研究すべきである。だれもわたしたちのために考えるよう頼るべきではない。だれであろうと、その人がどの地位に置かれていようと、わたしたちはだれかを自分たちのための標準としてみなすべきではない。わたしたちは互いに相談し、互に従うべきであるが、同時に何が真理であるかを学ぶために神がわたしたちに与えて下さった能力を働かせるべきである。わたしたちは各自、神聖な啓発を求めて神を見なければならぬ。わたしたちはここに神の目にテストに耐える品性を発達させなければならない。わたしたちは自分の考えに居座り、だれもわたしたちの意見に干渉すべきでないと考えてはならない。

あなたの理解しない教理の点に気づいたら、ひざまずいて神のみ許へ行き、何が真理であるかを理解できるように、そして神に対して戦っていたユダヤ人のようになることを見出されることがないようにしなさい。人々に真理以外のものは何も受け入れないように気をつけるべきことを警告する一方、わたしたちはまた彼らが光のメッセージを拒むことによって自分の魂を危険にさらすことがないように、かえって神のみ言葉の熱心な研究によって、闇から抜け出すように警告すべきである。

ナタナエルがイエスの許へ来たとき、救い主は「見よ、あの人こそ、ほんとうのイスラエル人である。その心には偽りが無い」と叫ばれた。ナタナエルは言った、「どうしてわたしをご存じなのですか」。イエスは答えて言われた、「わたしはあなたが、いちじくの木の下にいるのを見た」。そしてイエスはまた、わたしたちがもし何が真理かを知るためにこのお方に光を求めるならば、わたしたちが密室の祈りの場所にいるのをご覧になるのである。

もし兄弟が誤謬を教えているのであれば、責任ある立場にいる人々はそれを知るべきである。そしてもし彼が真理を教えているのであれば、彼の側に立つべきである。わたしたちはみな自分たちの間で教えられていることを知っているべきである。なぜなら、もしそれが真理であれば、わたしたちはそれを知る必要がある。すべての安息日学校の教師はそれを知る必要があるし、すべての安息日学校の研究者はそれを理解すべきである。わたしたちはみな神に対して、神がわたしたちに送られることを理解する義務の下にある。このお方はわたしたちがすべての教理を試すことのできる指示を与えてこられた。「律法と証とに求めよ。もし彼らがこの言葉によって語らないならば、それは彼らのうちに光がないからである」。しかし、もしこのテストに従って、単に自分の考えと合わないからという理由である点を認めることができないほど偏見に満ちていてはならない。

どのような知能であっても、たとえ一つの神の約束でさえ、そのすべての豊かさや偉大さを理解することは不可能である。ある人はある一つの見解から栄光を捕え、他の人は別の点から美しさや恵みを捕える。そして魂は天来の光をもって満たされる。もしわたしたちがあらゆる栄光を見るならば、霊は気を失ってしまう。しかし、わたしたちは、神の豊かな約束から今よりはるかに大きな啓示に耐えることができる。わたしたちがわたしたちのために計画されている満ちみちた祝福をどれほど見失っているかを考えるとき、わたしの心は悲しくなる。わたしたちは日に日にこのお方のご臨在の光のうちに歩むことができるときに、霊的な照明の一瞬のひらめきで満足している。

親愛なる兄弟がたよ、神のみ言葉を照らす義の太陽からの光線を求めて、かつてなかったほど祈りなさい。それによりあなたがたがその真の意味を理

解することができるためである。イエスはご自分の弟子たちが真理一神のみ言葉を通して聖化されるようにと嘆願された。そうであれば、「すべてのものをきわめ、神の深みまでもきわめる」お方、その働きが神の民にすべてのことを思い起こさせ、彼らをあらゆる真理に導いて下さるお方が、このお方の聖なるみ言葉の探求においてわたしたちと共にいて下さることを、どれほど熱心に祈るべきであろう。

神はわたしたちが、人にではなく、ご自分に頼ることを望んでおられる。このお方はわたしたちが新しい心を持つことを望んでおられる。わたしたちに神のみ座からの光の啓示を与えようと望んでおられるのである。

キリストを映して

Reflecting CHRIST



7月 「教会においてキリストを映す」

7月1日

神の栄光を映すべき神の教会

「あなたがたは、選ばれた種族、祭司の国、聖なる国民、神につける民である。それによって、暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、あなたがたが語り伝えるためである。」(ペテロ第一 2:9)

教会は人類救済のために神がお定めになった機関である。教会は奉仕するために組織された。その使命は世界に福音を伝えることである。教会を通して神の満ちあふれる豊かさを世界に反映させることが、神のはじめからのご計画であった。暗やみから驚くべき光に招き入れられた教会員たちは、神の栄光をあらわさなければならない。教会はキリストの恵みに富んだ宝庫であり、教会を通して神の愛がついには「天上にあるもろもろの支配や権威」に対してさえも十分明らかに示されるのである(エペソ 3:10)

教会に関して多くのすばらしい約束が聖書に記されている。「わが家はすべての民の祈の家となえられるからである」(イザヤ書 56:7)。「わたしは彼らおよびわが山の周囲の所々を祝福し」(エゼキエル 34:26) ……「見よ、わたしは、たなごころにあなたを彫り刻んだ。あなたの石がきは常にわが前にある」(イザヤ 49:16)。

教会は神が反逆した世に持つておられる神のとりでであり、神ののがれの町である。教会への裏切り行為は、ひとり子の血によって人類をあがなってくださった神に対する反逆である。世のはじめから忠実な人々がこの地上に教会を構成してきた。いつの時代にも主は見張りびとをお持ちになっていた。彼らは、彼らが生きた世代に忠実なあかしを立ててきたのである。これらの見張りびとたちは警告の使命を伝えた。そして、彼らが自分のよろいをぬぐように命じられたとき、他の人々がその仕事を受け継いだ。神はこうしたあかしびとを神との契約関係に置かれて、地上の教会を天の教会と結ばれたのである。神

はご自分の教会に仕えさせるために、天使たちをおつかわしになった。そして、黄泉の力は神の民に打ち勝つことができなかった。

幾世紀にもわたる迫害、闘争、暗黒の中にあつて、神は教会を支えてこられた。神は教会に落ちかかってくるどんな暗雲に対しても備えをし、みわざを妨害するために起こるどんな反対勢力も予見された。すべての事は神の予告通りに起こった。神は教会を見捨てておかれず、起こるべきことを預言のことで明らかにされた。そして預言者がみ霊に感じて預言した事は、成就した。神のすべての目的は達成される。神の律法はみ座につながっていて、どんな悪の力も、それを滅ぼすことはできない。真理は神の靈感を受け、神に守られている。それはすべての反対に勝利する。(患難から栄光へ上巻1～4)

7月2日

すべての真のクリスチャンは 光を担う者となる

「わたしは、……世の光である。」(ヨハネ 9:5)

神はわたしたちが世において光として輝くよう願っておられる。暗きは地をおおい、やみはもろもろの民をおおってきた。そしてキリストはご自分に従う者たちに次のように言われる、「あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい」。わたしたちは他の人々に真理の光を与え、つねに求め、つねに受け、つねに与えて、御霊の聖化を通してあらゆる単純さのうちに働いているべきである。

キリストは、「あなたがたは世の光である」と言われたとき、ご自分の民が占めるべき立場を指し示しておられた。教会員から他の人々を明るくする感化力が出るのである。光の与え主はご自分の家(世界)がすっかり明るくされるために、ともし火を整えてくださる。このお方は無尽蔵に光を貯蔵しておられ、真にご自分を信じる人々を、ますます明るく輝く場所においてくださる。わたしたちはあらゆる光の源から絶えず光を受けているがゆえに、絶えずわたしたちの光は明るさが増していくのである。キリストを眺めつつ、わたしたちはこのお方の光を世に反映させながら、このお方のみかたちへと変えられるのである。

キリストと結合した各々の魂は、神の家における光となる。各自は受け、与えて、自分の光がはっきりとした明るい光線のうちに輝き出るようにするのである。わたしたちはもし闇の中にいる人々に光が輝くようにしないならば、神に責任を問われる。神はご自分の教会の一人びとりに世に光を与えるという働きを与えてこられた。そしてこの働きにおいて自分の役割を忠実に果たす人々は、与えるためにますます増し加わる光の供給を受けるのである。ご自分の御霊に

よって、主は人間の代理人をかたどり、形成され、彼の精力をよみがえらせ、他の人々を明るくする光をお与えになる。

命はいつも活動のうちに自ら現れるものである。もし心臓が生きていれば、命の血液が体の各部分へ送られる。心が霊的な命で満たされている人々は、この命を表すように勧められる必要はない。神聖な命は恵みという豊かな流れのうちにそこからあふれ出るのである。彼らが祈るとき、語るとき、神に栄光が帰せられる。

主の能力には限りがない。このお方は前進し、ご自分の王国に新しい領域を加える用意ができておられる。しかし、このお方の民はこの働きを進展させるために自分の役割を果たさなければならない。「求めよ、そうすれば、与えられるであろう」というのが約束である。わたしたちの役割は揺るがない信仰をもってみ言葉に頼り、神がご自分の約束に従ってなされることを信じることである。信仰が敵の陰を切り進んでいくようにしなさい。疑問に思うような疑いが生じたら、キリストの許へ行きなさい。そして魂がこのお方との交わりによって励まされるようにしなさい。このお方がわたしたちのために買われたあがないは完璧である。このお方が捧げられた供え物は豊かで惜しめない。天には助けを必要としているすべての人のために尽きない助けがある。(バヴル・エー 1900年6月11日)

7月3日

人間の命において 神に栄光が帰せられる

「わたしたちは神の同労者である。あなたがたは神の畑であり、神の建物である。」(コリント第一 3:9)

救い主に従う者が神と協力し、実を結ぶすべての手段を豊かに受けて、このお方の下で働く働き人として、豊かに与えるのを見ることは、このお方の喜びである。キリストはご自分の結ばれた実によってご自分の御父に栄光を帰した。受けて与えることにより、このお方の働き人たちは多くの実を結ぶのである。「今までは、あなたがたはわたしの名によって求めたことはなかった。求めなさい、そうすれば、与えられるであろう。そして、あなたがたの喜びが満ちあふれるであろう」とキリストはご自分の弟子たちに言われた。

摂理の神は、そのみ足の跡が見えなくても、このお方の明白で直接的な働きが認められず、理解されなくても、なおわたしたちの間を歩まれる。世はその人間の知恵によっては、神を知らない。主は人間を通して、人の栄光ではなく、ご自分の栄光があらわされるようにと意図しておられる。このお方の代理人を通して輝くのはこのお方の光である。摂理と啓示は神聖な調和のうちに働き、万事において最初に最後に最上に神をあらわすのである。

キリストは愛という紐によって、罪人をご自身に引き寄せ、ご自分に結びつけようとしておられる。それは彼らが誇りや自己満足のうちにはではなく、柔和と低さのうちに神と共に働く者となるためである。罪人たちが改心するとき、神は天地の支配と権威の前に栄光をお受けになる。これらの改心者たちは世の前に、天使たちの前に、人々の前に見世物である。「あなたがたは証人なのである」と神は言われる。わたしを眺めることによって、あなた方は品性が変えられていく。キリストのような寛容と愛を表すことによって、あなたがたはこの

変化を表すのである。

神がわたしたちに非常に豊かに与えてくださった愛とやさしさを他の人々に与えることによって、わたしたちは自分の光を輝くようにするのである。わたしたちは神のすべての賜物をできるかぎり最善の方法で用い、それを善を生み出すものとする。わたしたちはすでに神のものであったもの以外は、このお方にお捧げすることはできないが、周りで苦しんでいる人々を助けることができる。彼らにこの世の生涯に必要なものを与え、それと同時にすばらしい神の愛について、彼らに語るができる。

キリストはご自分の民と利害を一つにされる。このお方ははっきりとわたしたちがこのお方の苦しんでいる人々に仕えることによって、このお方に仕えることができることと仰せになった。魂が病んで勇気の脈拍が弱いときに語られた励ましと元気づける言葉は、救い主によって、あたかもご自身に語られたかのようにみなされるのである。……

わたしたちは世において、味のある塩のように、正しくさせる感化を及ぼすべきである。聖なるものでなく、純潔でなく、偶像礼拝的な世代にあつて、わたしたちは純潔で聖なるものとなり、キリストの恵みには人のうちに神のかたちを回復する力があることを示すのである。わたしたちは世にある人々に救いの感化力を発揮するのである。(パイブル・エコ-1900年6月11日)

7月4日

キリストと御父が一つであられるように 一つになる

「わたしはもうこの世にはいなくなりますが、彼らはこの世に残っており、わたしはみもとに参ります。聖なる父よ、わたしに賜わった御名によって彼らを守って下さい。それはわたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためであります。」(ヨハネ 17:11)

わたしたちはどこで純潔、善、聖潔を見出し、どこにいれば安全であろうか。どにおおかみが入ってこない囲いがあるであろうか。わたしはあなたに、……主はご自分が働かれる組織された体を持っておられると告げる。彼らの間にはたくさんのユダがいるかもしれない。そこには試練の状況下で自分の主を否定する性急なペテロがいるかもしれない。イエスが愛されたヨハネによって表される人々がいるかもしれないが、彼はキリストや真理に対する侮辱に復讐するために、天から火を呼び求めて人の命を滅ぼそうと願う熱心さを持っているかもしれない。しかし、偉大な教師はこれらの興奮的な悪を正すために指導的な教訓を与えようとしておられる。このお方は今日もご自分の教会に対して同様になさっている。このお方は彼らの危険を指し示しておられる。彼らの前にラオデキヤのメッセージを提示しておられるのである。

このお方は彼らに、真理の拒否と真の光にそむくあらゆる利己心、あらゆる誇り、あらゆる自己称揚、あらゆる不信と偏見は危険であること、また悔い改めなければ、これらの事柄を心に抱いている人々は、ユダヤ国家のように暗闇に取り残されるようになることを示しておられる。すべての魂はキリストの祈りに応えるように努めよう。すべての魂は思いのうちに、嘆願のうちに、勧めのうちにその祈りをこだまさせ、すべての人がキリストが御父と一つであられるように一つになり、この目的に向かって働くことができるようにしよう。戦い

の武器を自分たち自身の仲間に向ける代わりに、それを神と真理の敵に向けよう。あなたの心を尽くしてキリストの祈りをこだまさせなさい、「聖なる父よ、わたしに賜わった者たちを、あなた自身の御名によって守って下さい。それはわたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためであります。……わたしがお願いするのは、彼らを世から取り去ることではなく、彼らを悪しき者から守って下さることです」(ヨハネ 17:11～15)。……

心の戸が聖霊に向かって開かれなければならない。なぜなら、これが聖化するお方であり、真理が媒体だからである。真理をイエスのうちにあるがまま受け入れなければならない。これが唯一の本物の聖化である。「あなたの言葉は真理であります」。ああ、一致のためのキリストの祈りを読みなさい、「わたしに賜わった者たちを、あなた自身の御名によって守って下さい。それはわたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためです」。キリストの祈りは、今このお方の弟子である人々のためばかりでなく、世の終わりに至るまで、このお方の弟子の言葉を通してキリストを信じるようになるすべての人々のためである。……

主はその日以来、あらゆる時代の変化を通じて現代に至るまで、一つの教会を持っておられる。……聖書はわたしたちの前に模範となる教会を提示している。彼らは互いに、また神との一致のうちにあるべきである。信徒たちが生けるぶどうの木であられるキリストのうちに一致しているとき、その結果、彼らはキリストと一つになり、同情と優しさと愛に満たされるのである。(原稿 21, 1893 年)

7月5日

完全に一つになることは 成功を与える

「父よ、それは、あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、みんなの者が一つとなるためであります。すなわち、彼らをもわたしたちのうちにおらせるためであり、それによって、あなたがわたしをおつかわしになったことを、世が信じるようになるためであります。」(ヨハネ 17:21)

わたしはわが民に、批判や悪口をやめ、熱心な祈りのうちに神の許へ行き、誤っている人々を助けることができるように自分たちを助けてくださるよう、このお方に求めることを強く勧める。彼らは互いに、またキリストに結びつくようにしなさい。彼らにヨハネ 17 章を研究させなさい。そしてどのようにキリストの祈りを祈り、生きるかを学ばせなさい。このお方は慰め主であられる。このお方は彼らの心のうちに住み、彼らの喜びを満たしてくださる。このお方のみ言葉は彼らにとって命のパンのようであり、このように得た力で神の誉れとなる品性を発達させることができるようになる。完全なクリスチャンの交わりが彼らのうちに存在するようになる。彼らの生活には、つねに真理への従順の結果としてあらわれる実が見られるようになる。

キリストの祈りをわたしたちの生活の規則としよう。わたしたちは神の恵みの力を世にあらわす品性を形成することができる。些細な相違について語ることを少なくし、もっと勤勉にキリストのみ名を信じる人々にとってキリストの祈りが何を意味するかについて研究しよう。わたしたちは一致のために祈り、それからわたしたちの祈りに神がお答えになることができるような方法で生きなければならない。

完全に一つになること—御父と御子の間に存在する結合ほどに緊密な一致—これが神の働きの努力に成功を与えるものである。(原稿 1, 1903 年)

キリストとの、また互いの完全な一致が信徒たちの完全にとって、絶対的に必要である。信徒の心のうちに信仰によってキリストがご臨在なさるとき、それが彼らの力であり、命である。それは神との一致をもたらす。「あなたがわたしのうちに」。キリストを通しての神との一致は、教会を完全にする。(日付未詳原稿 133)

自己否定と自己犠牲によって、他の人々に仕えることを求める人は、神に推奨する品性の特徴が与えられ、知恵、真の忍耐、寛容、親切、同情が発達する。これが彼に、神の王国でもっとも良い場所を与えるのである。(原稿 165, 1898 年)

キリストのような寛容な精神以外には、何ものも教会における完全な一致を完成することはできない。……サタンは不和をまくことができる。キリストだけが同意しない要素を調和させることができる。……あなたがたが個々の教会の働き人として、神を最高に愛し、あなたの隣人を自分自身のように愛するならば、そのとき一致するために苦しい努力をすることなく、キリストにおける一致が存在し、耳は噂話に閉ざされ、だれも自分の隣人に対する譴責を取り上げることはない。教会員は愛と一致を大事にし、大きな一つの家族のようになる。そのとき、わたしたちは世に対して神がご自分の御子を世に遣わされたという証をする資格を帯びるのである。キリストは「互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう」と言われた。(手紙 29, 1889 年)

7月6日

あなたがたの神に会う備えをせよ

「主の大いなる日は近い、近づいて、すみやかに来る。主の日の声は耳にいたい。そこに、勇士もいたく叫ぶ。」(ゼパニヤ 1:14)

わたしは諸教会に眠りから目覚めさせるように命じられている。わたしたちは目に見えない超自然的な敵と戦わなければならないのである。わたしたちは日々戦わなければならない闘いに備えができるように、全身に神の武具をまとうなければならない。

わたしは光と知識を受けた人々に最も熱心に祈り、来て「主を助け、主を助けて勇士を攻め」るようにと呼び求める。だれがこれらの力強い敵であろうか。それはダニエルの時代に、天来の使命者がペルシャの王に彼のすべき働きを説得するのを妨げた権力である。

キリストの再臨の到来を告げるわたしたちの働きは、このお方の初臨においてキリストの先がけであったバプテスマのヨハネの働きに似ている。わたしたちは世に「主の大いなる日は近い」「あなたがたの神に会う備えをせよ」とのメッセージを宣布しなければならない。わたしたちは今までしてきたよりもはるかに多くの働きをしなければならない。

わたしたちの間には、イスラエルの子らが約束の地に導きいれられた時のように、自分たちがはっきりと前進する一步一步を見ることができないかぎり、「前進せよ」との神のご命令に動こうとしない人々が多くいる。彼らにはほんのわずかしか信仰がなく、ほんのわずかしか自己否定の精神がない。……

神のみ働きには、自己犠牲の精神に満たされているすべての人のために場所がある。わたしたちには目の前に厳粛な働きがある。神は進んで魂の苦しみを経験しようと思う男女、このお方の働きに献身する男女を呼び求めておられる。わたしたちは……神の事柄に実質的な経験を持っている人、困難にあ

ったときに、わたしたちはあきらめることも失望もしないと言って仕事をしっかりやりぬく人……を必要としている。わたしたちは他の人々がしようとしていることを打ち壊し、破壊しようとするのではなく、働きを強め、築き上げる人々を必要としている。神が働くことのできる男女、すなわち心が砕けた休耕中の土地を必要としているのである。

わたしたちには、信仰生活の長い人々によって支えられ、担われなければならない働き人は必要としていない。……利己心に落ち込まない働き人、自己満足でない人々を望むのである。……

サタンはいつも聖なる信任を裏切ろうとしている人々と協力する。裏切り者、……すなわち安息日遵守者だと主張しながら、働きを確立する代わりに自分の兄弟たちを非難し、偽って告発することによって妨害する人々がいる。

ああ、人生の小事に没頭しているどれほど多くの人々が、自己否定と自己犠牲のうちに高尚な働きができるはずであろうか。彼らは盲目で遠く先を見ることができない。彼らは原子から世界をつくり、世界から原子をつくる。彼らは浅い流れになってしまった。なぜなら、命の水を他の人々に与えないからである。(原稿 173, 1898 年)

7月7日

すべての教会員は 奉仕を捧げることができる

「わたしたちはまた、神と共に働く者として、あなたがたに勧める。神の恵みをいたずらに受けてはならない。」(コリント第二 6:1)

わたしたちのすべての教会員は国内と外国の伝道の働きに深い関心を感じるべきである。彼らが新しい領域に真理の旗印を打ち立てるために自己犠牲的な努力を払うとき、大いなる霊的な祝福が彼らにもたらされる。この働きに投資された金銭は豊かな報いをもたらす。新しい改心者がみ言葉から受けた光に喜んで、今度は自分たちが他の人々に光を伝えるための資金を捧げるのである。

主はご自分の民が伝道の働きのような様々な分野に取りかかるよう呼び求めておられる。大路や垣根にいる人々は救う福音のメッセージを聞かなければならない。教会員はまだ十分に真理の証拠を受けていない自分の友人や隣人の家庭においてなさなければならない。

この働きに取りかかる人々はキリストの生涯を継続的な研究課題としなさい。非常に熱心に、すべての能力を主のご奉仕に用いなさい。まじめで無私の努力には尊い結果が続く。偉大な教師から、働き人たちはあらゆる教育の中で最高の教育を受けるのである。

神の民の多くは、現代の真理の光を含んだ出版物をもって出て行き、第三天のメッセージを一度も聞いたことがない場所へ入って行かなければならない。聖霊を吹き込まれた文書伝道者の働きは善のためのすばらしい可能性に満ちている。戸別にまわって愛と単純さのうちに真理を提示することは、キリストがご自分の弟子たちを最初の伝道旅行に送り出されたときの指示と調和している。神への賛美の歌や心からの祈り、家庭の輪の中で聖書の真理を単

純に提示することにより、多くの人々の心に触れることができる。神聖な働き人なるお方は、心に罪の自覚を送るためにご臨在くださる。「わたしはあなたがたと共にいる」というのがこのお方の約束である。このような助け手の永続的なご臨在の保証をもって、わたしたちは信仰と希望と勇気をもって働くことができる。

神への奉仕の単調さは破られる必要がある。すべての教会員は、神のための働きの何かの分野に携わるべきである。真理に良く根ざしている人々は近隣の場所へ出て行き、集会を開き、すべての人を誠心誠意に招待しなさい。これらの集会では、旋律豊かな歌と熱心な祈りと神のみ言葉の研究があるようにしなさい。……

人々の家庭を訪問し、何か単純で印象深い聖書の真理の主題について、家族の人々に読んで聞かせることのできる人々がいる。……

家庭の義務に追われて戸別訪問の働きができない人々がいる。しかし、彼らは何の助けもできないと考えてはならない。彼らは出て行く人々を励まし、彼らを支えるのを助けるために自分の財産の中から捧げることができる。(原稿 150, 1903 年)

7月8日

悔い改めた者は許されるようにしなさい

「ゆるしてやれ。そうすれば、自分もゆるされるであろう。」(ルカ 6:37)

主は自分たちの罪を悔い改める者をみな許される。主が顔を背けられるのは、悔い改めない者たち、うぬぼれて自らを高くする者たちからである。このお方は涙と悔い改めの声を聞くことを拒まれることはない。このお方は悔い改めと悲しみのうちにご自分の許へ来るへりくだった魂から顔を背けられることは決してない。……

神のみ言葉を信じる教会員は、自らをへりくだらせて自分の罪を告白する魂を無関心に見下すことは決してしない。悔い改めた人は喜びをもって戻されるようにしなさい。キリストは「わたしは悔い改めます。自分の罪を悲しみます」というすべての人を許すためにこの世に来られた。兄弟が「神はわたしを許してくださいました。あなたは許してくださいますか」と言うとき、彼の手を握って、「わたしは自分が許されたいと願うように、許します」と言いなさい。

「あなたがたはこう祈りなさい。天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。み国を来たさせたまえ。みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。われらに負債(おいめ)ある者をわれらがゆるすごとく、われらの負債をもゆるしたまえ。われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。国と力と栄えとは、限りなく汝のものなればなり。アーメン。もしも、あなたがたが、人々のあやまちをゆるすならば、あなたがたの天の父も、あなたがたをゆるして下さるであろう。もし人をゆるさないならば、あなたがたの父も、あなたがたのあやまちをゆるして下さらないであろう」。

敵があらゆる方法で滅ぼそうとしているとき、教会員が彼に一致して、悔い改め、許しを求めている者を失望させるのであろうか。神はだれも裁判人の立

場には置かれなかった。「人をさばくな。自分がさばかれないためである。あなたがたがさばくそのさばきで、自分もさばかれ、あなたがたの量るそのはかりで、自分にも量り与えられるであろう。…… 狭い門からはいれ。滅びにいたる門は大きく、その道は広い。そして、そこからはいつて行く者が多い。命にいたる門は狭く、その道は細い。そして、それを見いだす者が少ない」。

「さてイエスはそこから進んで行かれ、マタイという人が取税所にすわっているのを見て、『わたしに従ってきなさい』と言われた。すると彼は立ちあがって、イエスに従った」。

「それから、イエスが家で食事の席についておられた時のことである。多くの取税人や罪人たちがきて、イエスや弟子たちと共にその席に着いていた。パリサイ人たちはこれを見て、弟子たちに言った、『なぜ、あなたがたの先生は、取税人や罪人などと食事を共にするのか』。イエスはこれ聞いて言われた、『丈夫な人には医者はいらない。いるのは病人である。』「わたしが好むのは、あわれみであって、いけにえではない」とはどういう意味か、学んできなさい。わたしがきたのは、義人を招くためではなく、悔い改めのために罪人を招くためである』」。あなたはこの教訓をあなたの心に深く沈ませるであろうか。(手紙 199, 1905 年)

7月9日

起きよ、そして魂のために見張れ

「わたしたちは、わたしをつかわされたかたのわざを、昼の間にしなければならぬ。夜が来る。すると、だれも働けなくなる。」(ヨハネ 9:4)

わたしは今ほど、主の道を保ち、つねにこのお方のみ旨を行う必要性を感じたことはない。今は永遠のために徹底的な働きをなすべき時である。わたしたちはへりくだり、信頼していなければならない。わたしたちは神が賜ったすべてのタラントを用いなければならない。わたしたちは神のみ言葉からの偉大にして尊い光をもって祝福されてきた。そしてこの光をどのようにして最善に用いるかを研究すべきである。個々にわたしたちはテストされ試されている。神はわたしたちがご自分の大いなる祝福をどのように用いるかを知ろうと見ておられる。

わたしたちはわが民を目覚めさせ、自分たちに委ねられたタラントを神の誉れと栄光のために用いるために、何を言うことができるであろうか。世の最大の必要は、魂の改心のために払われる献身した努力である。幾千万もの人々が真理の知識がないゆえに滅びている。わたしの魂はときに、恐ろしい光景を見るときに心底からかき立てられる。わたしはすべての思想をキリストに服従させるよう努めなさいとわが民に訴えたい。こうして彼らのすべての力が魂を救う働きに用いられるためである。今は寝ている時ではない。起きて、魂のために会計報告を出す責任がある者として見張るべき時である。

わたしたちの諸教会は今起きて、状況に目覚めるであろうか。キリストの代表者たちは魂のために重荷を担うであろうか。すべての国民、部族、国語、民族は世のための最後の憐れみのメッセージを聞かなければならない。わたしたちの教会員が聖書の真理をよりよく理解するなら、彼らは自分たちの物憂げなまどろみから覚めて自分たちの金銭を神のみ事業に捧げ、聖霊の導きの

下に熱心に献身することであろう。神の民はこのお方の代理人であり、世の至る所に真理を宣布するように任命されている。

キリストはわたしたちに「み国を来たらせたまえ。みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ」と祈るようにお教えになった。これはわたしたちの前に、着実に進歩し、継続的に前進することによって、どれほどの高さにまで到達できるかを明らかにしている。キリストの教会員として、わたしたちは地においてこのお方のみ旨をなすべきである。もしすべての者が他の人々が自分にしてほしいと思う通りに他の人々にするならば、改心する世界の兆候を見ることであろう。クリスチャンはこの原則の上に築くべきである。わたしたちは頂点が天に達するはしごを上るべきである。

すべての教会員は主人なるお方のための積極的な奉仕に携わるべきである。「なぜ、何もしないで、一日中ここに立っていたのか」とこのお方はお尋ねになる。「今日、わたしのぶどう園で働きなさい。昼の間に働きなさい。夜が来る。すると、だれも働けなくなる」。

「あなたがたはわが証人であると主は言われる」。わたしたちはこれを把握することができるであろうか。キリストに代わってわたしたちは人々に神と和解するように嘆願しなければならない。……このお方をあなたの贖い主として認めなさい。そうすれば、このお方が御父と一つであられるように、あなたはこのお方と一つになる。(手紙 190, 1907 年)

7月10日

教会員は他の人々を祝福するために 祝福される

「あなたがたは、地の塩である。」(マタイ 5:13)

キリストの教会は祝福となるべきであり、その教会員は他の人々を祝福するときに祝福されるのである。民を全世界の前にお選びになる神のご目的は、彼らをご自分の息子むすめとして養子にするためばかりでなく、彼らを通してご自分が世に神聖な照明の恩恵を送るためである。主がアブラハムを選ばれたのは、単に神の特別な友とならせるためばかりでなく、主が諸国民に授けたいと願っておられる尊い特別な特権の媒体となるためであった。彼は自分の周囲の道徳的暗闇のただ中で光となるのであった。

神がご自分の子らを光と真理をもって祝福されるときはいつでも、彼らが永遠の命という賜物を得ることができるためばかりでなく、彼らの周りにいる人々もまた霊的に啓発されるためであった。……「あなたがたは、地の塩である」。そして神がご自分の子らを塩となさるとき、それは彼ら自身が保存されるためばかりでなく、他の人々を保存する手段となるためであった。

キリストの宗教は利己的な宗教ではない。それは錠や鍵の下に保存しておくものではなく、闇の中に座っている人々を明るくするために、すべての本物のクリスチャンから出る感化力となるものである。真のクリスチャンと関わるすべての魂は、それによってより良いものとなる。わたしたちは神の光を担う者であり、天の不変の光線を他の人々に反射させるのである。

わたしたちが享受するためにわたしたちのあらゆる霊的および現世の祝福が与えられるのは、キリストの功績を通してである。キリストの救いがわたしたちの手の届くところにおかれているのは、わたしたちがそれを信仰によってつかむことができるため、すなわち、キリストの愛をわたしたちの品性に織り込み、

それをわたしたちの生活で実践できるため、わたしたちが人類すべてにとって祝福となることができるためである。しかし、もしわたしたち自身が神のみ言葉からの神聖な光線を集めない限り、だれ一人光を注ぐことはできない。わたしたちはキリストのような品性の型を持たなければならない。さもなければわたしたちの主の真の代表者となることはできない。

わたしたちは神の助けなしには何もできない。神の御霊がわたしたちの努力と共に働いてくださらなければならない。そしてもし神の祝福がわたしたちに伴うならば、わたしたちは光の通路となるのである。主はわたしたちすべての者に、もし活用するならば、わたしたちを地の低いところから神との緊密な天来の関係へ入れ、利己心というすべての繊維がわたしたちの性質から根こそぎにされる経験を与えたいと願っておられる。

あなたは神の建物の生ける石として輝いているであろうか。……すべての商売の取引において、わたしたちに対する支配的な感化力を働かせているのではない限り、わたしたちは本物の宗教を持っているのではない。わたしたちは自分の人生の仕事に、実践的な信心を織り込むべきである。自分たちの心に及ぶキリストの変化させる恵みを持つべきである。わたしたちは自己をはるかに少なくし、イエスをはるかに多くする必要がある。……

主がわたしたちに願っておられるように、わたしたちが他の人々を扱うことができるように、わたしたちを謙遜に保ち、よく祈り、憐れみ深く、心優しく、礼儀正しいものとしてくれる豊かな恵みを、わたしたちは必要としている。(サインズ・オブ・タイムズ 1890年2月3日)

7月11日

神はわたしたちが他の人々を取り扱うように わたしたちを取り扱われる

「わたしは彼らおよびわが山の周囲の所々を祝福し、季節にしたがって雨を降らす。これは祝福の雨となる。」(エゼキエル 34:26)

だれか他の人々を扱わなければならないすべての人は、その人々の事情を自分自身のものとすべきである。なぜなら、わたしたちが他の人々を扱ったのとちょうど同じ方法で、神がわたしたちを扱われるからである。わたしたちはキリストの子らを扱うように、キリストを扱っているのである。なぜなら、このお方はご自分の聖徒というかたちで表されているからである。神の真理は魂を聖化し、品性を精錬して高めなければならない。そしてわたしたちは天の宮廷にふさわしくされる前に、天来の型を得なければならないのである。

多くの人々は現代の真理を信じる信徒たちと、また信じない人々と接触するような状況におかれる。そうであれば、すべての人が、キリストを信じると公言する人々の輝くともし火からの光線をとらえることができるように、低い光の芯を切り、燃やしていることはどれほど重要なことであろう。わたしたちは霊的な墮落のこの時代のために豊富な恵みを必要としている。……

助け手を雇ったことのあるあなたは、あなたの従業員もまた神と共に働く共労者となることができるように、あなたの光が彼に輝くようにしてきたであろうか。神はあなたにご自分の真理の光を送ることによって、尊い特権と利点を与えてこられた。そしてあなたはこれらの祝福を活用し、他の人々もあなたの憐れみにあずかることができるようにすべきである。あなたの家庭のすぐ周りには、なんと大きな伝道地があることであろう。毎日、あなたは神のみ約束の価値について語るのになんという機会があることであろう。(サインズ・オブ・タイムズ
1890年2月3日)

すべてのクリスチャンには、すぐ彼自身の戸のところに、彼自身の近隣になすべき働きがある。しかし、なんと多くの人々が永遠の利益を見失い、自分の現世の事柄に完全に飲み込まれてしまっていることであろう。そうなる必要はない。なぜなら、イエスは、「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう」と言われるからである。

あなた自身とあなたの隣人の永遠の幸福を最初にして最重要事項として考慮しなさい。あなたの隣人たちには救うか失うかの魂がある。そして神はご自分が光を与えてこられた人々が、他の人々のために断固とした関心ある努力を払うことを期待しておられる。彼らは真理の聖なる要求を人生のすべての取引において覚えていなければならない。信者も不信者も先進的な真理の知識を持っていると主張する人々の生活に、着実に明白な強い光が、熱心さのうちに、献身のうちに、品性の高潔さのうちに、人々を扱う方法のうちに輝き出ようにしなさい。そうすれば主はご自分のしもべであるあなたも慈悲深く扱ってくださるのである。……

あなたが自分の光が輝くようにし、神のみ事業に対するあなたの献身を通して、他の幾人かが自分の奉仕をこのお方に捧げるように導かれるとしよう。そのとき、彼らはさらに他の人々に、すなわちあなたの個人的な感化では届くことのできない人々にとって祝福となるのである。主ばわたしは……周囲の所々を祝福し……」と言われる。あなたの光は遠くにまで及ばなければならない。(サハズ・オブ・タイムズ 1890年2月10日)

7月12日

神はご自分を尊ぶ者を尊ばれる

「わたしを尊ぶ者を、わたしは尊び」(サムエル記上 2:30)

あなたがたは光を与え、時間、思想、気転を神の働きに与えるために雇われた神のしもべである。そしてもしあなたがこれをなすならば、あなたの天父の認可と永遠の命という賜物を受けるのである。……

多く祈りのうちにいなさい。だれも、あるいは個人的な利益も、あなたの力の源であられる神からあなたを引き離させてはならない。朝、起床したら世帯のすべての者を集めて、アブラハムのようにあなたと共に神を求めるように彼らを招きなさい。もしあなたの仕事が強く迫り、仕事に行くようせきたてるとすれば、そのときこそ、なおのこと祈り、あなたの嘆願を恵みのみ座へ差し出し、守ってくださる神の保護と助けと憐れみと祝福を得る必要がより大きいのである。神が要求しておられる時間を出し惜しんで、早く仕事へ行こうと、信仰のない形式的な祈りを急いですましてはならない。

神は、もしあなたがこのお方に求めるならば、あなたの仕事においてさえ、あなたのために多くのことをなすことができになる。このお方はあなたを事故から、破損から、命や財産の損失から守るためにご自分の御使たちを遣わすことができになる。神が与えてくださった特権をなおざりにする人々が、慰めや平安や喜びを得ていないその理由は、彼らが自分の力の源であられる神との交わりのために立ち止まらないからである。神はご自分の奉仕にこれほど無関心であるときに、ご自分の御霊を注ぎ、わたしたちを祝福することがおできになるであろうか。このお方はご自分の計画においてわたしたちの協力が無い限り、ご自分の豊かな祝福をお与えになることはできない。このお方は「わたしを尊ぶ者を、わたしは尊び」と言われる。

わたしたちが一日に三回祈ることは、ダニエルにとってそうであったように、

わたしたちにとっても折にかなっており、不可欠である。祈りは魂の命であり、霊的な成長の基礎である。あなたの家庭において、自分の家族の前で、従業員の前で、あなたはこの真理のために証をすべきである。そしてあなたが教会で自分の兄弟に会う機会があれば、彼らに神と魂の間に伝達の水路を開き続けておく必要性について語りなさい。もし彼らが祈るための心と声を見出すならば、神は彼らの祈りへの答えを見出されるということを伝えなさい。彼らに自分たちの宗教的な義務を怠らないように言いなさい。兄弟たちに祈るように勧めなさい。わたしたちは見出したいなら、探さなければならず、受けたいなら求めねばならず、戸を自分たちに開けてもらいたいなら、たたかなければならぬのである。

もし数人しか集まらなかったとしても、神の尊い約束を我が物と主張するのに十分である。御父、御子、聖天使たちが、あなたがたの信仰、あなたがたの堅実な原則を見るために臨在しておられ、あなたがたは神の聖霊の注ぎを受けるのである。神は什一をご自分の蔵に持つてくるばかりでなく、時間や骨と脳と筋肉の力をご自分の奉仕へ持ち込む人々のために、豊かな祝福を蓄えておられる。(サイン・オブ・タイムズ 1890年2月10日)

7月13日

教会におけるより大きな霊的命への道

「あなたがたは新しく生れなければならないと、わたしが言ったからとて、不思議に思うには及ばない。」(ヨハネ 3:7)

しばしば次の問いがなされる、なぜ教会にもっと力がないのであろうか。なぜもっと生きた信心がないのであろうか。その理由は神のみ言葉のご要求が真実と真理において遵守されていないからである。神を最高に愛しておらず、隣人を自分自身のように愛していない。これが全体を網羅している。この二つの戒めに律法と預言者全体がかかっている。これらの二つの神のご要求に明白に従いなさい。そうすれば教会内に不和がなく、家族の中に不協和音がなくなる。多くの人にとって働きがあまりに表面的すぎる。外面のかたちが内なる恵みの働きに取って代わっている。……真理の理論は頭を改心させてきたが、魂の宮はその偶像から清められていない。……

罪についての真の自覚、悪のゆえに本当に心に悲しむこと、自己に対する死、日ごとに品性の欠点に打ち勝つこと、新生—これらは古いものとして表されており、パウロは、これらは過ぎ去った、万物は新しくなったと言っている。このような働きについて、多く的人是はまったく知らない。彼らは真理を自分たちの生来の心に接木し、それから従来どおり、同じ不幸な品性の特質を表し続けている。今必要なのは、生ける火によって触れられた唇から愛のうちに語られる率直な証である。

教会員は魂を闇から光へ勝ち取るために自分たちがもっていなければならない神との生きたつながりを表していない。木を良くすれば、良い実がその結果である。心に及ぶ神の御霊の働きが信心のために不可欠である。だれでも神の戒めを守り、み言葉を行う者となることができる前に、御霊の働きが真理を受け入れる人々の心の中に受け入れられ、彼らのうちにきれいな心を創造し

なければならない。偉大な教師は驚くニコデモに「不思議に思うには及ばない」と言われた。「あなたがたは新しく生れなければならないと、わたしが言ったからとて、不思議に思うには及ばない」。

聖書が研究されるべきほど研究されていない。それは生活の規則とされていない。その規則に良心的に従い、品性の基礎とするとき、そこにはどのような仕事の投機も世俗的な仕事も深刻な感化を及ぼすことのできない目的の堅固さがある。このように神のみ言葉によって形成され、支持された品性は、試練と困難と危険の日に持ちこたえる。世への感化力が救うものとなる前に、良心は啓発され、心に受け入れられた真理の愛によって、生活は聖化されなければならない。

必要とされているのは、時機にかなった行動の人、迅速で、断固とした、原則には岩のように堅固で、どのような危急にも応じる用意のできている人である。わたしたちがこれほど弱く、わたしたちの中にこれほど多くの無責任な人がいる理由は、彼らが神とつながっていないからである。彼らには内に住まわれる救い主がおられず、キリストの愛をつねに新鮮に新しく感じていない。……いかなる地上の関係も、この愛ほど強くはない。何ものもこれと比較することはできない。(ビュー・アンド・ヘルド 1879年8月28日)

7月14日

十人のおとめは教会をあらわす

「夜中に、『さあ、花婿だ、迎えに出なさい』と叫ぶ声がした。」(マタイ 25:6)

キリストは、弟子たちと一緒にオリブ山に座しておられる。夕日は、山のかたに沈み、夕やみのとぼりが空をおおっている。すぐ目の前には、何かの祝い事でもあるのか、あかあかとあかりが輝いている家がある。窓から流れ出る光と、付近に待っている人びとは、やがて、婚礼の行列が現われるしるしである。

東洋では、婚礼が夜、行なわれるところが多い。花婿は、花嫁を迎えに行って自分の家まで連れてくる。婚礼の行列は、たいまつをともして花嫁の実家から、招かれた客のために宴会の用意がしてある花婿の家までいく。キリストがごらんになった光景の中には、婚礼の行列が到着するのを待って、それに加わろうとしている人びとがいる。

花嫁の家の近くに、白い着物をまとった十人のおとめがいる。各自は、火のついたあかりと、油を入れる器を持っている。それぞれ花婿が現われるのを今か今かと待っている。しかし行列はなかなか現われない。何時間も経過する。待っていたおとめたちは、疲れて眠ってしまう。すると夜中に「さあ、花婿だ、迎えに出なさい」と呼ぶ声がする。彼らは急に目をさまして、起き上がる。見ると行列は、たいまつをあかあかとたき、楽の音も楽しく近づいてくる。彼らは、新郎の声も、新婦の声も聞く。

十人のおとめたちは、それぞれのあかりを整えて、急いで出かけようとする。ところが、五人は、器に油を入れるのを怠った。彼らはこんなに遅れるとは思っていなかった。彼らには、万一の場合の用意がなかった。彼らは、あわてて、思慮深い女たちに「あなたがたの油をわたしたちにわけてください。わたした

ちのあかりが消えかかっていますから」とたのむ。しかし、待っていた五人は、あかりを整え、器に持っていた油をともしびに入れてしまった。余分の油はない。「わたしたちとあなたがたとに足りるだけは、多分ないでしょう。店に行って、あなたがたの分をお買いになる方がよいでしょう」と彼らは答える。

彼らが買いに行っているうちに、行列は進んで行き、彼らを置いて行ってしまった。ともしたあかりを持った五人は、列に加わり、婚礼の行列と共に家に入り、戸は閉ざされた。思慮の浅い女たちが、婚宴の場に着いたときには、思いがけなくも入場を拒まれた。……

キリストは、花婿を待っている人びとをごらんになりながら、十人のおとめの話を弟子たちに語られた。キリストは彼らの経験によって、キリストの再臨直前の教会の経験を説明なさった。(キリストの実物教訓 384, 385)

7月15日

二種類の見張り人たち

「あなたのみ言葉はわが足のともしび、わが道の光です。」(詩篇 119:105)

二種のおとめたちが待っていたことは、主を待望すると公言する人びとも二種あることを示している。彼らは純粹の信仰を表明するので、おとめと呼ばれている。あかりは、神のことばを代表している。「あなたのみ言葉はわが足のともしび、わが道の光です」と詩篇記者は言っている(詩篇 119:105)。油は、聖霊の象徴である。聖霊は、ゼカリヤの預言の中に次のように表わされている。……「わたしが見ていると、すべて金で造られた燭台が一つあって、その上に油を入れる器があり、また燭台の上に七つのともしび皿があり、そのともしび皿は燭台の上にある、これにおのおの七本ずつの管があります。また燭台のかたわらに、オリブの木が二本あって」……

金の油は、二本のオリブの木から、金の管によって燭台の上の油を入れる器にいれられ、そこからともしび皿に注がれて聖所の中を照らした。そのように、神のみ前に立つ聖なる者から、神のご用に献身した人間という器に、聖霊が注がれるのである。これら二人の油そそがれた者の役目は、天からの恵みを神の民に与えることである。この恵みだけが神のみことばを、足のともしび、また、道の光とすることができる。「万軍の主は仰せられる、これは権勢によらず、能力によらず、わたしの霊によるのである」。

たとえのなかで、十人のおとめは、みな、花婿を迎えに出た。だれもがあかりと油の器をもっていた。しばらくの間は、彼らの間になんの相違も見られなかった。キリスト再臨直前の教会もその通りである。すべての者が聖書の知識を持っている。すべての者がキリストの再臨の近づいたことを聞き、確信をもって彼の出現を待つのである。しかし、たとえにあったように、現在も同じである。待つ時間が長びいて信仰が試みられる。そして、「さあ、花婿だ、

迎えに出なさい」と呼ぶ声がしたとき、準備のできていない者が多い。彼らは、あかりと共に、器の中に油を持っていない。彼らは聖霊に欠けているのである。

……

聖霊を伴わない真理の理論は、魂を生かすことも、心を清めることもできない。聖書の戒めや約束をどんなによく知っていても、神の霊がその真理を心に深く刻みこませなければ、品性は変えられない。聖霊によって、目が開かれるのでないならば、人は真理と誤りを見分けることができず、サタンの巧妙な誘惑におちいってしまう。……

品性は譲渡することができない。だれも他の人に代わって信じることはできない。他の人に代わって、聖霊を受けることもできない。聖霊の働きの実である品性を人に分与することはできない。(キリストの実物教訓 385～388)

7月16日

思慮深いおとめたちは 自分のあかりが輝くようにした

「しかし、思慮深い者たちは、自分たちのあかりと一緒に、入れものの中に油を用意していた。」(マタイ 25:4)

たとえの中で、思慮深い女たちは、あかりとともに、器の中に油を持っていた。あかりは、彼女たちが待っていた夜の間、あかあかと燃え続けた。それは、花婿を祝う光を、いよいよ輝かしくしたのである。その光は、暗黒の中に輝いて、花婿の家と婚宴の場所への道を照らしたのである。

そのように、キリストの弟子たちは、世界の暗黒に光を輝かさなければならぬ。神のことは、聖霊の働きによってそれを受け入れる人の心を変える光になる。人びとの心に、みことばの原則を植えつけることによって、聖霊は、彼らの心の中に神の性質をめばえさせる。神の栄光の光、すなわち、神の品性が、神に従う者のなかに輝き出なければならない。こうして、彼らは、神に栄えを帰し、花婿の家、すなわち神の都と小羊の婚宴への道を照らすのである。

花婿が来たのは、真夜中であつた。一最も暗い時であつた。そのように、キリストがおおいでになるのも、この地上歴史の最も暗黒の時である。ノアやロトの時代の状態は、人の子の来られる直前の世界の状態をあらわしていた。聖書は、この時のことをさして、サタンが全力を傾け、「あらゆる不義の惑わし」をもって働くといっている(テサロニケ第二 2:9, 10)。この最後の時代に暗黒、様々の誤り、異端、まどわしなどが急速に増加したことを見ても明らかにサタンが働いていることを知ることができる。サタンは、ただ世俗の人びとを捕えるばかりでなくてわたしたちの主、イエス・キリストの教会であると称しているものをもあざむいている。大背教は、一寸先も見えない真夜中の暗黒のようになることであろう。これは、神の民によっては、試練の夜、嘆きの夜、

真理のために迫害を受ける夜となる。しかし、その暗黒の夜から、神の光が輝くのである。

神は「やみの中から光」が照りいでるようになされた（コリント第二 4:6）。「地は形なく、むなしく、やみが淵のおもてにあり、神の霊が水のおもてをおおっていた。神は『光あれ』と言われた。すると光があった」（創世記 1:2, 3）。そのように霊的暗黒の夜に、神は「光あれ」と仰せになる。神の民には、「起きよ、光を放て。あなたの光が臨み、主の栄光があなたの上へのぼったから」と言われる（イザヤ書 60:1）。

「見よ、暗きは地をおおい、やみはもろもろの民をおおう。しかし、あなたの上には主が朝日のごとくのぼられ、主の栄光があなたの上にあられる」（イザヤ書 60:2）。（キリストの実物教訓 390,391）

7月17日

人性における神の栄光の啓示

「しかし、神が光の中にいますように、わたしたちも光の中を歩くならば、わたしたちは互に交わりをもち、そして、御子イエスの血が、すべての罪からわたしたちをきよめるのである。」(ヨハネ第一 1:7)

キリストは弟子たちに光を輝かすように努力せよと、お命じにならなかった。ただあなたがたの光を輝かしなさいと言われただけであった。もし、キリストの恵みを受けているのであれば、光はあなたのうちにある。障害物を取り除くならば、主の栄光は、あらわれるのである。光は暗黒の中に輝き出て、やみを追いやってしまう。こうしてあなたは自分の感化の及ぶ範囲で、光を輝かさずにはおられない。

人間の姿の中にキリストご自身の栄光があらわれることは、天と人間との間を非常に近いものにするのであって、キリストの宿られるすべての魂の中に神の宮の栄光が見られるようになる。そして、内住のキリストの栄光に、人びとは捕えられるのである。こうして、神に導かれた多くの魂の賛美と感謝とは、潮のごとくに、偉大な与え主なる神に栄えを帰すのである。……

キリストは、力と大いなる栄光をもって来られる。彼は、ご自分の栄光と父の栄光とをもって来られる。彼は、すべての聖天使をひきいて来られる。全世界が暗黒に閉ざされている時に、聖徒たちの住居にはどこにも光がある。彼らは、キリストが再びおいでになる最初の光をとらえるのである。主は、輝く栄光に包まれておられる。そしてあがない主なるキリストは、お仕えするすべての者の賛美をお受けになる。悪者は、み前からのがれ去るけれども、キリストに従った者は、喜びにあふれる。家長ヨブは、はるかに、キリスト再臨の時をながめて、「しかもわたしの味方として見るであろう。わたしの見る者はこれ以外のものではない」といった(ヨブ記 9:27)。

キリストに忠実に従った人びとにとって、キリストは日ごとの伴侶、親しい友であった。彼らは、神との密接な接触、絶えざる交わりを保ってきた。彼らの上に、主の栄光がのぼった。イエス・キリストのみ顔にあらわれた神の栄光の知識の光が、彼らの中に反映したのである。今彼らは、荘厳な王の大いなる輝きと栄光に浴して喜ぶのである。彼らは、心に天を持っているから、天との交わりに入る準備ができているのである。……

「わたしはまた、大群衆の声、多くの水の音、また激しい雷鳴のようなものを聞いた。それはこう言った、『ハレルヤ、全能者にして主なるわれらの神は、王なる支配者であられる。わたしたちは喜び楽しみ、神をあがめまつろう。小羊の婚姻の時がきて、花嫁はその用意をしたからである。……』それから、御使はわたしに言った、『書きしるせ。小羊の婚宴に招かれた者は、さいわいである』。『小羊は、主の主、王の王である……。また、小羊と共にいる召された、選ばれた、忠実な者たちも、勝利を得る』(黙示録 19:6～9、17:14)。(キリストの実物教訓 396, 397)

7月18日

義の太陽の光を映す

「わたしたちはこれらの事の証人である。神がご自身に従う者に賜った聖霊もまた、その証人である」。(使徒行伝 5:32)

神はすべての教会員が忠実に自分の義務の持ち場につき、自分の責任を自覚して、自分の周囲にいる人々の道に降り注ぐために義の太陽の明るい光線を絶えず集めることによって、自分の魂の周りに天来の雰囲気創造を望んでおられる。……

キリストが御父の代表であられたように、わたしたちはキリストの代表者とならなければならない。わたしたちは魂をイエスにひきつけ、彼らに世の罪を取り除くカルバリーの小羊を指し示すことができる。キリストはご自分の義で罪を覆ったりはなさらず、かえって罪を取り除いてその場所にご自身の義を着せられる。あなたの罪が清められるとき、キリストの義はあなたの前を進み、主の栄光があなたのしんがりとなる。あなたの感化力はそのとき決定的にキリストを支持するものとなる。なぜなら、あなたは自己を中心とする代わりにキリストを中心とし、自分が神聖な委託の後見人だと感じるからである。

キリストがご自身の血の価をあなたの贖いと他の人々の贖いのために支払われたことを思い出すとき、あなたは感動してこのお方の義の明るい光線を捕らえ、周囲にいる人々の道に降り注ぐことができるようにする。あなたはしかるべき先の日に自分が聖なるものになるはずだと考えて将来を見てはならない。あなたが真理を通して聖化されるべきなのは今である。……イエスは「聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、……地のはてまで、わたしの証人となるであろう」と言われる(使徒行伝 1:8)。わたしたちは聖霊を受けなければならない。……聖霊はキリストが弟子たちに話されたことをことごとく思い起こさせるであろうと彼らに約束された慰め主である。

そうであれば、わたしたちは自分自身を見ることをやめて、あらゆる徳をもたらずお方を眺めよう。だれも自分自身をよくすることはできない。わたしたちはただありのまま、真剣にすべての罪のしみや汚れから清められ、聖霊の賜物を受けることを願いつつ、イエスのみ許に来なければならない。……生きた信仰によってわたしたちはこのお方の約束をつかまなければならない。なぜなら、このお方は「たといあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。紅のように赤くても、羊の毛のようになるのだ」と言われたからである。

わたしたちは、主がわたしたちの上に輝くことを許された光を他の人々に反映して、キリストのための証人とならなければならない。わたしたちはインマヌエルの君の血染めの旗印の下に進軍する忠実な兵士となるべきである。……わたしたちの救いの将は戦いの計画をご存知であり、わたしたちはこのお方を通して勝ち得て余りあるものとなるのである。(サイン・オブ・タイムズ 1892年4月4日)

7月19日

教会を聖化し、きよめるための キリストのご計画

「こういうわけで、わたしはひざをかがめて、天上にあり地上にあつて『父』と呼ばれているあらゆるものの源なる父に祈る。どうか父が、その栄光の富にしたがい、御霊により、力をもってあなたがたの内なる人を強くして下さるように、」
(エペソ 3:14～16)

彼〔キリスト〕は、「天においても地においても、いっさいの権威を授けられた」と宣言しておられる。この無制限の力を、わがものと主張するのがわたしたちの特権である。

神の栄光はそこにご品性である。モーセが山にいて熱心に神にとりなしていたとき、「どうぞ、あなたの栄光をわたしにお示してください」と祈った。これに答えて神は「わたしはわたしのもろもろの善をあなたの前に通らせ、主の名をあなたの前にのべるであろう」と宣言された。……

神の栄光—このお方のご品性—がそのときあらわされた。「主、主、あわれみあり、恵みあり、怒ることおそく、いつくしみと、まこととの豊かなる神、いつくしみを千代までも施し、悪と、とがと、罪とをゆるす者、しかし、罰すべき者をば決してゆるさず、父の罪を子に報い、子の子に報いて、三、四代におよぼす者」。

このご品性はキリストの生涯のうちに表された。ご自身の模範によって肉のうちに罪を責めるために、ご自分の身に罪深い肉の様をとられた。絶えず、このお方は神のご品性を眺めておられた。絶えずこのお方はこのご品性を世にあらわされた。

キリストはご自分に従う者たちがその生涯にこの同じ品性を表すよう願っておられる。……

今日、なおご自分の教会を聖化し、清めることがこのお方のご目的である。「水で洗うことにより、言葉によって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、また、しみも、しわも、そのたぐいのものがいっさいなく、清くて傷のない栄光の姿の教会を、ご自分に迎えるためである」。……このお方はご自分があらわされたご品性以上の賜物を、ご自分を信じる人々に授けるように御父にお求めになることはできなかった。このお方のご要望にはなんとという大きさがあることであろう！キリストに従う一人びとりになんと満ちみちた恵みを受ける特権があることであろう。

神はご自分の品性を正しくあらわす人々と共に働かれる。彼らを通してこのお方のみ旨は天になるごとく、地にもなるのである。聖潔はそれを所有する者が実り豊かに、すなわちあらゆるよいわざに豊かな者となるように導く。キリストのうちにある思いを持つ者は、決して善を行うことに倦み疲れることがない。この世の生涯で昇進することを期待する代わりに、彼は天の大能者が聖化された人々をご自分のみ座にまで高めてくださる時を眺めているのである。……

キリストがわたしたちに授けてくださる誉れをもっと十分に評価することができればよいのだが。このお方のくびきを負い、このお方に学ぶことによって、わたしたちは大志において、柔和と低さにおいて、品性の芳香において、このお方ようになり、このお方と共に賛美と誉れと栄光を、最高のお方として神に帰すのである。(サインズ・オブ・タイムズ 1902年9月3日)

7月20日

「神に満ちているものの すべてをもって満たされる」

「信仰によって、キリストがあなたがたの心のうちに住み、あなたがたが愛に根ざし愛を基として生活することにより、すべての聖徒と共に、その広さ、長さ、高さ、深さを理解することができ、また人知をはるかに越えたキリストの愛を知って、神に満ちているもののすべてをもって、あなたがたが満たされるように、と祈る。」(エペソ 3:17～19)

パウロは、コロサイ人への手紙の中で、神の子供たちに与えられる豊かな祝福について述べている。彼は言う。わたしたちが「絶えずあなたがたのために祈り求めているのは、あなたがたがあらゆる霊的な知恵と理解力とをもって、神の御旨を深く知り、主のみこころにかなった生活をして真に主を喜ばせ、あらゆる良いわざを行って実を結び、神を知る知識をいよいよ増し加えるに至ることである。更にまた祈るのは、あなたがたが、神の栄光の勢いにしたがって賜わるすべての力によって強くされ、何事も喜んで耐えかつ忍(ぶことである)」(コロサイ 1:9～11)。

また彼は、エペソの兄弟たちが、キリスト者の特権の高さを理解するに至ることを望むと書いている。彼は、至高者のむすこ、むすめとして彼らが持つことのできる驚くべき力と知識を、非常に意味深い言葉で示している。彼らは、「御霊により、力をもって……内なる人」が強くされ、「愛に根ざし愛を基として生活することにより、すべての聖徒と共に、その広さ、長さ、高さ、深さを理解することができ、また人知をはるかに越えたキリストの愛を知」ることができる。しかし、使徒が、「神に満ちているもののすべてをもって、あなたがたが満たされるように」と祈るときに、この特権は最高潮に達するのである(エペソ 3:16～19)。

ここに、われわれが神の要求に応じるときに、われわれの天の父の約束を信じる信仰によって到達することのできる最高点が示されている。われわれは、キリストの功績によって、無限の力を持たれるおかたのみ座に近づくのである。「ご自身の御子をさえ惜しまないで、わたしたちすべての者のために死に渡されたかたが、どうして、御子のみならず万物をも賜わらないことがあろうか」(ローマ 8:32)。父なる神は、み子に聖霊をあふれるばかりにお与えになった。

……

イエスによって、墮落したアダムの子供たちは、「神の子」となる。「実に、きよめられたも、きよめられる者たちも、皆ひとりのかたから出ている。それゆえに主は、彼らを兄弟と呼ぶことを恥とされたい」(ヘブル 2:11)。キリスト者の生活は、信仰と、勝利と、神にある喜びとの生活でなければならない。…… 神のしもべ、ネヘミヤが、「主を喜ぶことはあなたがたの力です」と言ったのは至言である(ネヘミヤ記 8:10)。パウロも言っている。「あなたがたは、主にあっていつも喜びなさい。繰り返して言うが、喜びなさい。」「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって、神があなたがたに求めておられることである」(ピリピ 4:4, テサロニケ第一 5:16 ~ 18)。……

神の律法が、その正当な位置に回復されて初めて、神の民と称する人々の間に、初代の信仰と敬虔のリバイバルが起り得るのである。(各時代の大争闘下巻 206 ~ 209)

7月21日

終わりの時に必要とされている聖霊の力

「聖霊がその時に教えてくださるからである。」(ルカ 12:12)

わたしたちは、自分たちを世から分離させ、今あるわたしたちにした特別な真理を少しでも目立たなくさせるべきではない。なぜなら、それらは永遠の利益を伴っているからである。神はわたしたちに今起こりつつあることに関する光を与えてこられた。そして筆舌をもってわたしたちはこの真理を世に宣布すべきである。しかし、わたしたちの言葉を実りあるものとするのはただ、魂のうちにあるキリストの命と、聖霊によって与えられた愛の活動する原則だけである。キリストの愛こそ、人間の唇から語られた神のための一つ一つのメッセージの強さであり、力である。

来る日も来る日も永遠に過ぎ去っていき、わたしたちを恩恵期間の終わりへと近づける。かつてなかったほど、わたしたちはもっと豊かに聖霊がわたしたちの上に下るように祈り求めなければならない。そして働き人の上に聖化する感化力がもたらされるように求めなければならない。こうして彼らの労している人々が、彼らがイエスと共にいて、このお方から学んだことを知ることができるためである。

わたしたちは、敵の策略を見抜き、忠実な見張り人として危険を宣布できるように、霊的な視力を必要としている。わたしたちは人間の思いのできる限りキリスト教という偉大な主題とその遠大な原則を理解することができるように、上よりの力を必要としている。

神の御霊の感化力の下にある人々は狂信的にはならず、かえって静かで確固としており、思想にも言葉にも行いにも行き過ぎがない。欺瞞的な教理の混乱のさなかで、神の御霊は、真理の証拠を拒んだことのない人々にとって導きまた避け所となり、真理であられる神から聞こえる声以外はみな静められる。

わたしたちは、最も欺瞞的な性質の誤謬が受け入れられ、信じられ、一方では真理が捨てられている終わりの時代に生存している。主は自分たちの上に輝いている光に責任を持っている牧師も民も両方支えてくださる。このお方はわたしたちが真理の宝石を集めて、それらを福音の箱に置く働きを勤勉になすよう求めておられる。それらは神聖な美しさのうちに世の道徳的な闇の中で輝き出なければならない。これは聖霊の助けなしには成し遂げられないが、この助けがあればすべてをなすことができる。わたしたちが聖霊を授けられるとき、信仰によって無限の力をつかむのである。

神から来るもので失われるものは何もない。世の救い主はご自分のメッセージを魂に送られる。それによって誤謬の闇が一掃されるためである。聖霊の働きははかり知れないほど偉大である。神のための働き人に力と効力がもたらされるのはこの源からである。(福音宣伝者 288, 289)

7月22日

聖霊の変化させる力

「〔神は〕聖霊をあなたがたの心に賜わる」（テサロニケ第一 4:8）

聖霊の力が感謝され、心のうちに感じられるとき、はるかに自己は表れなくなり、はるかに人間の兄弟間の思いやりが表されるようになる。わたしたちの責任は自己をあらわすことではなく、自分たちのうちに聖霊に働いていただくことである。こうして自己に欺かれた男女が惑わしから救われることができるのである。

すべての人は、高くても低くても、もし改心していなければ一つの共通した土台の上にいるのである。人々は一つの教理からもう一つの教理へ移るかもしれない。これはなされているし、これからもなされるであろう。……しかしなお、彼らは次のみ言葉の意味を知らないこともあり得るのである。「わたしはまた新しい心をあなたがたに与える」。新しい教理を受け入れ、ある教会に属しても、それで新しい命がもたらされるわけではない。たとえその人の属した教会が真の基礎の上にたてられた教会であったとしてもである。教会とのつながりは、改心の代わりとはならない。教会の教義に記名したとしても、もし心が本当に変えられていなければ、だれにとっても少しの価値もない。

この問題は深刻なものであり、その意味を十分に悟るべきである。人々は教会員で、一見熱心に働き、年々一通りの義務を行うかもしれないが、なお改心していないこともあり得る。……しかし真理が真理として心に受け入れられるとき、それは良心を通して、その純潔な原則をもって魂を捕える。真理は、その美しさを思いに明らかにする聖霊によって心のうちにおかれ、その変化させる力が品性のうちに見られるようになるのである。……

わたしたちは偉大な真理を受け入れる特権にあずかっているのであるから、わたしたちは生きた光の水路となるべきであるし、また聖霊の力の下にそうな

ることができる。そのとき、わたしたちは恵みの御座のもとへ行くことができる。そして約束の虹を見ながら、悔いた心でひざまずき、答えを受けずにはいないような霊的な激しさをもって天国を求めることができる。わたしたちはヤコブのように、力をもってそれを奪うのである。そのときわたしたちのメッセージは救いにいたる神の力となる。わたしたちの嘆願は真剣さと自分たちの大いなる必要感に満ちるようになり、決して拒まれないのである。生活と品性によって、また神の祭壇の燃えている炭火にふれられた唇によって、真理が表現されるようになる。

これがわたしたちの経験となるとき、わたしたちはこれまで非常にやさしく大事にしてきたみじめで安っぽい自己から引き上げられるようになる。心から利己心という腐食力を空にし、神への賛美と感謝で満たされる。わたしたちは主を、すなわちキリストを大いなるものとされた恵みに富まれる神を大いなるものとするのである。そしてこのお方はわたしたちを通してご自分の力をあらわされ、わたしたちを収穫畑の鋭い鎌のようにされる。神はご自分の民にご自分をあらわすように求めておられる。(ビュー・アット・ハルド 1899年2月14日)

7月23日

今日教会の中で 真の宗教が必要とされている

「この人たちは、いと高き神の僕たちで、あなたがたに救の道を伝えるかただ。」
(使徒行伝 16:17)

わたしたちは教会において真の宗教を必要としている。わたしたちが新しく生まれたことを、そして自分たちの生活の中で偉大な天来の真理の原則を実践していることを表すのが、神のご目的である。こうしてのみ、わたしたちは栄光の王国における永遠の命を得ることができるのである。……

もし神の民が自分を否定し、十字架を取り上げ、イエスに従うならば、働き人が今いるところに1000人以上いることであろう。わたしたちに必要なのは聖霊の聖化であり、それを毎日必要としている。わたしたちに必要なのは祈りの人、すなわち平静と謙遜のうちにあつて、誇示も興奮もなく、自己に打ち勝っている人が必要である。

わたしたちに必要なものは……現代の真理の生きた原則に定着することである。サタンはわたしたちの信仰の原則をむしばむために、自分の詭弁を忍び込ませている。あなたがたはパウロとシラスがしかるべき場所で教えていたときに、女が彼らのところへきて「この人たちは、いと高き神の僕たちで、あなたがたに救の道を伝えるかただ」と叫んでいたのを覚えているであろう。この女は占いの霊に捕らわれていて、予言によって自分の主人に多くの利益をもたらしていた。彼女の感化力は偶像礼拝の強化を促進していた。

「パウロは困りはてて、その霊にむかい『イエス・キリストの名によって命じる。その女から出て行け』と言った。すると、その瞬間に霊が女から出て行った」。

しかし、あなたがたは言う、彼女は良いことを語っていたのに、なぜパウロは彼女を譴責しなければならなかったのかと。彼女を通して語っていたの

はサタンであり、自分の詭弁を、神のみ言葉を宣布していた人々によって教えられた真理と混ぜようとしたことであった。

同じ危険が今日存在している。敵は自分の詭弁を、神のみ前にひざまずき、世を満たしている邪悪な感化力に対して抵抗することができるために、聖書が何と言っているかについて理解力を求めて祈るべき人々を通して、持ち込もうとしている。神は科学的な詭弁がすべての心からきよめられるようにと望んでおられる。このお方はわたしたちがすべての邪悪な策略、邪悪な働きを譴責するよう望んでおられる。もしわたしたちはそれらの策略を譴責せずに許すなら、その結果に苦しまなければならない。……神はわたしたちが光を求めてご自分の許へ来て、どこへ行くにもわたしたちがご臨在をたずさえていくように望んでおられる。……

敵は、あなたの経験を捕え、あなたの信仰をむしばむようなわずかな繊維を入れて、自分の詭弁を提示することであろう。わたしはあなたの目が天来の目薬を塗られるように、何が真理で、何が誤謬かを識別できるようにと祈る。わたしたちはキリストの義の白い衣を着る必要がある。わたしたちは神と共に歩み、共に語る必要がある。(原稿 66, 1905 年)

7月24日

キリストに従う者は 正しいことのために堅く立つべき

「義が、朝日の輝きのようにあらわれいで、……救が燃えるたいまつ様になるまで、わたしはシオンのために黙せず」（イザヤ 62:1）

神はご自分の働き人たちが、この病んだ敬神とまがった原則の時代に、健全で影響力のある霊性を表すように求めておられる。……これこそ、神があなたに求めておられることである。あなたの感化力の一点一点が、キリストの側に用いられなければならない。あなたは今、物事を正しい名で呼ばなければならない。そしてイエスのうちにあるがままの真理を擁護して堅く立たなければならない。

命がキリストと共に神のうちに隠されているすべての魂は、いま前線に出て、聖徒たちにひとたび伝えられた信仰のために戦うことが義務である。キリストご自身が地上におられれば実現するはずのとおり、真理は擁護され、神の王国は前進しなければならない。……

聖霊がわたしたちの教会員の思いを支配するとき、わたしたちの教会は言葉に、伝道に、霊性に今よりもっと高い標準が見られるようになる。教会員は命の水によって活気づけられ、働き人たちはキリストなる頭の下で、精神において、言葉において、行為において自分たちの主人を表すようになり、わたしたちが携わっている壮大な最後の働きを前進させるよう互いに励ますのである。一致と愛が健全に増し加わっていき、それは神が罪人の贖いのために御子を遣わし、死に渡されたことを世に証する。神聖な真理が高められる。そしてそれが燃えるともし火のように輝き出るとき、わたしたちはますますはっきりと理解していく。

この時代のための試金石となる真理は、人間の作りだしたものではない。

それは神からのものである。……

キリストに従う人々はすべての動きにおいてクリスチャンの原則—神を最高に愛し、自分の隣人を自分自身のように愛すること—への敬意を表すべきである。闇の中にいる人々の途上に光と祝福を反映し、落胆している人々を慰め、同胞の寄留者たちが飲むために胆汁を与える代わりに、苦い水を甘くするべきである。

真理の知識を増し加え、御父と一つであられるお方にすべての賛美と栄光を帰そうではないか。最も熱心に天来の油の注ぎ、聖霊を求めようではないか。天の宮廷でついに、キリストのうちに完全であると宣言されるために、純潔で成長するキリスト教を得ようではないか。

「さあ、花婿だ、迎えに出なさい」。ただちに起きて、自分のともし火を整えなさい。ただちに互いの完全な一致を求めなさい。わたしたちは困難を予期しなければならない。試練は来るであろう。わたしたちの救いの将であられるキリストは苦難を通して完全にされた。このお方に従う人々は数多く敵に遭遇し、厳しく試されることであろう。しかし、絶望する必要はない。キリストは彼らに「勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている」と言われる。(パシフィック・ユニオン・リコーダ―1903年12月17日)

7月25日

神への賛美には、抵抗しがたい力がある

「その時、主を恐れる者は互に語った。主は耳を傾けてこれを聞かれた。そして主を恐れる者、およびその名を心に留めている者のために、主の前に一つの覚え書が生かされた。」(マラキ 3:16)

クリスチャンには、栄光の御座から永遠の光線を集める喜び、またこれらの光線を自分自身の道だけでなく、自分と交わる人々の道にも反射する喜びが与えられている。希望と励ましの言葉、感謝に満ちた賛美と思いやりある元気な言葉を語ることによって、彼は自分の周りにいる人々をよりよくし、彼らを高め、天と栄光を指し示し、あらゆる事情の事物を超える永遠の財産、不死の嗣業、滅びることのない富を求めようとする彼らを導こうと奮闘するのである。

「主にあつていつも喜びなさい。繰り返して言うが、喜びなさい」と使徒は言っている。わたしたちがどこへ行っても、クリスチャンの希望に満ちた元気な雰囲気をつぎつぎと伝えていくべきである。そのときキリストのない人々はわたしたちの公言する宗教に魅力を認めるようになる。不信者はわたしたちの信仰の一貫性を見るようになる。わたしたちはますます天の気配、すなわちすべてのものが明るく喜んでいる地を、もつとはっきりと認める必要がある。祝福された希望が満ちみちていることをもつとよく知る必要がある。もしわたしたちが絶えず「希望のうちに喜んでいる」ならば、出会う人々に励ましの言葉を語るができるようになる。……

わたしたちがしばしば互いに感謝と喜びの言葉を語ることによって神に栄光を帰すべきなのは、信者や不信者との日々の交わりにおいてばかりではない。クリスチャンとしてわたしたちは、自分自身の活気づけのために、また受けた慰めを与えるために、互いに集まる集会をやめてはならないと訓告されている。週ごとに開催されるこれらの集会で、わたしたちは神の慈しみ深さと種々の憐

れみ、罪から救うこのお方の力を思うべきである。特徴に、気質に、言葉に、品性に、わたしたちは神の奉仕が良いことを証言しなければならない。こうしてわたしたちは「主のおきては完全であって、魂を生きかえらせ（改心させ）」ることを宣布するのである。

わたしたちの祈りや集会は、特別な助けや慰めの時となるべきである。……これは神の事柄に日々新鮮な経験を得ることによって、そして神の民の集会においてこのお方の愛について語ることをためらわないことによって最もよく成し遂げられる。……

もしわたしたちがもっと多くイエスのことを、そしてもっと少なく自分自身のことを考え、語るならば、このお方のご臨在をもっと得るようになる。もしわたしたちがこのお方のうちに宿るなら、平安、信仰、勇気に満たされるようになり、集会に集まったときに語るための勝利の経験を得るようになる。こうして他の人々はわたしたちのはっきりとした力ある神のための証によって活気づけられるのである。このお方の恵みの栄光を賛美するこれらの尊い感謝は、キリストのような生活によって支えられるとき、抵抗しがたい力を持っており、魂の救いのために働くのである。(ザン・ウッチマン 1905 年 3 月 7 日)

7月26日

わたしたちには、 「いっそう確実な預言の言葉」がある

「わたしたちの主イエス・キリストの力と来臨とを、あなたがたに知らせた時、わたしたちは、巧みな作り話を用いることはしなかった。」(ペテロ第二 1:16)

使徒には、人類に関する神の目的について語る資格が十分にあった。なぜなら、キリストがこの世で働いておられたとき、ペテロは神の国に関することをいろいろと見聞きしていたからである。「わたしたちの主イエス・キリストの力と来臨とを、あなたがたに知らせた時、わたしたちは、巧みな作り話を用いることはしなかった。わたしたちが、そのご威光の目撃者なのだからである。イエスは父なる神からほまれと栄光とお受けになったが、その時、おごそかな栄光の中から次のようなみ声がかかったのである、『これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である』。わたしたちもイエスと共に聖なる山にいて、天から出たこの声を聞いたのである」と、彼は信者たちに言った。

この証拠は、信者たちの望みの確かさを確信させるものであったが、さらにいっそう説得力のある証拠が、預言のあかしの中にあつた。これによってすべての人々の信仰が強められ、堅固で不動のものとされるのであつた。「こうして、預言の言葉は、わたしたちにいっそう確実なものになった。あなたがたも、夜が明け、明星がのぼって、あなたがたの心の中を照すまで、この預言の言葉を暗やみに輝くともしびとして、それに目をとめているがよい。聖書の預言はすべて、自分勝手に解釈すべきでないことを、まず第一に知るべきである。なぜなら、預言は決して人間の意志から出たものではなく、人々が聖霊に感じ、神によって語つたものだからである」と、ペテロは言った。

悩みの時の安全な指針として「預言の言葉」の「確実」さを強調する一方、使徒は厳粛に、誤つた預言の光について教会に警告した。そのにせの預言は、

「にせの教師」たちによって掲げられるもので、彼らは「異端をひそかに持ち込み、……主を否定し」た。こうしたにせ教師たちが教会に起こり、信仰のある兄弟たちの多くから正しいと思われるが、使徒は彼らをたとえて、「水のない井戸、突風に吹きはらわれる霧であって、彼らには暗やみが用意されている」と言った。「彼らの後の状態は初めよりも、もっと悪くなる。義の道を心得ているながら、自分に授けられた聖なる戒めにそむくよりは、むしろ義の道を知らなかった方がよい」と、ペテロは言った。……

しかし、だれもがみな敵のわなにかかるわけではない。世のすべてのものの終わりが近づく時に、時のしるしを見分けることのできる忠実な者たちがいるであろう。信仰を告白している多くの者たちが、その行いによって信仰を否定している一方では、最後まで耐え忍ぶ残りの民がいるのである。……「愛する者たちよ。それだから、この日を待っているあなたがたは、しみもなくきずもなく、安らかな心で、神のみまえに出られるように励みなさい。」(患難から栄光へ下巻 235～238)

7月27日

心に抱いている悪は キリストの愛に取り替えられなければならない

「兄弟を愛する者は、光におるのであって、つまづくことはない。」(ヨハネ第一 2:10)

〔弟子たち〕は聖徒たちの交わりのすばらしさに恵まれた。……しかし、少しずつ変化が起こった。信者たちは他人の欠点を探し始めた。失敗をいつまでも責めて、思いやりのない批判しか念頭におかず、救い主とその愛を見失った。彼らは外面的な儀式についてますます厳格になり、信仰の実践より理論についてやかましくなった。他人をさばくことに躍起になって、自分たちの誤りを見のがした。キリストが要求されていた兄弟愛を失い、何よりもみじめなことに、彼らは自分たちの損失に気づかなかった。幸福と喜びが彼らの生活から出て行こうとしていることに気づかず、また、神の愛を心から閉め出していて、やがて暗黒の中を歩き出すことに気づかなかった。

ヨハネは教会内に兄弟愛が欠けてきていることを悟り、この愛が絶えず必要なことを信者たちに説き勧めた。教会へ宛てた彼の手紙にはこの思いが満ちている。「愛する者たちよ。わたしたちは互に愛し合おうではないか。愛は、神から出たものなのである。すべて愛する者は、神から生れた者であって、神を知っている。」……

キリストの教会を最も危うくするものは、この世の反対ではない。教会を最も深刻な不幸に陥れるものは、信者たちの心に隠された悪であり、それは最も確実に神のみわざの進展を遅らせる。ねたみ、疑い、あらさがし、悪意ほど靈性を弱めるものはない。一方、神の教会を構成しているいろいろな性質の人たちの間における調和と一致は、神がみ子をこの世におつかわしになったことを最も確かにあかしするものである。このようなあかしをたてることが、キリ

ストに従う者たちの特権である。しかしこれを行うためには、彼らはみずからキリストの戒めに服さなければならない。品性がキリストの品性に、また、意志がキリストの意志に調和しなければならない。

「わたしは、新しいいましめをあなたがたに与える、互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい」と、キリストは言われた(ヨハネ 13:34)。何とすばらしいことばであろう。しかし、何と実行されていないことばであろう。今日神の教会には兄弟愛がはなはだ不足している。救い主を愛していると公言する者たちの多くが、互いに愛し合っていない。未信者たちは、クリスチャンと自称する人たちの信仰が、彼らの生活にきよめの力を及ぼしているかどうかを見守っている。だが、彼らはすぐに品性の欠点や行為の矛盾を見つける。

ごらんください、この人たちはキリストのみ旗のもとに立ちながら、互いに憎み合っていると、クリスチャンは敵に言わせないようにしよう。クリスチャンはみな一つの家族で、みな同じ天父の子供たちであり、同じように祝福された不死の望みを抱いているのである。互いを結び合わせている絆は固く愛情のこもったものである。(患難から栄光へ下巻 250～253)

7月28日

教会の隅のかしら石であられるイエス

「見よ、わたしはシオンに、選ばれた尊い石、隅のかしら石を置く。それにより頼む者は、決して、失望に終ることがない。」(ペテロ第一 2:6)

キリストご自身が築かれた土台の上に、使徒たちは神の教会を建てた。聖書の中で、神殿建設の姿は、しばしば教会の建設の例として用いられている。ゼカリヤはキリストを、主の宮を建てる「枝」にたとえている。……

使徒たちは、ユダヤ人の世界と異邦人の世界という石切り場で、土台を築くための採石の仕事をしていた。パウロは、エペソの信者たちに宛てた手紙の中で述べている、「そこであなたがたは、もはや異国人でも宿り人でもなく、聖徒たちと同じ国籍の者であり、神の家族なのである。またあなたがたは、使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられたものであって、キリスト・イエスご自身が隅のかしら石である。このキリストにあって、建物全体が組み合わされ、主にある聖なる宮に成長し、そしてあなたがたも、主にあって共に建てられて、霊なる神のすまいとなるのである」(エペソ 2:19～22)。……

使徒たちは確かな土台、すなわちとこしえの岩の上に築いた。彼らはこの土台に、世界から切り出された石を運んできた。建設者たちの働きに障害がないわけではなかった。キリストの敵たちの反対により、彼らの働きは非常に困難になった。彼らはにせの土台の上に築こうとしている者たちの偏狭、偏見、憎悪と闘わなければならなかった。教会の建設者として働いた多くの人たちは、ネヘミヤの時代に城壁を築いた者たちにたとえられる。彼らについては次のように記されている、「荷を負い運ぶ者はおのおの片手で工事をなし、片手に武器を執った」(ネヘミヤ記 4:17)。

王も為政者も、祭司もつかさたちも、神の宮を破壊しようとした。しかし忠実な人々は、投獄され、拷問にかけられ、死刑にされても働きを進展させた。

建物は次第に美しくなり均衡がとれてきた。ときには周囲の迷信という霧のために、働き人たちはほとんど目が見えなくなった。また、ときには、敵の暴虐に会って敗北しそうになった。しかし彼らはゆるぎない信仰と屈しない勇気をもって、あくまでも働きを推し進めた。

最初の建設者らは、次々に敵の手にかかって倒れた。ステパノは石で打たれ、ヤコブは剣で殺され、パウロは首をぎられた。ペテロは十字架につけられ、ヨハネは島流しにされた。しかし教会は成長していった。倒れた人たちのあとを新しい働き人たちが受けついで、一つずつ石が加えられていき、こうして神の教会の宮が徐々に出来上がっていった。(患難から栄光へ下巻 303～305)

7月29日

神の宮の建設は前進する

「そこであなたがたは、もはや異国人でも宿り人でもなく、聖徒たちと同じ国籍の者であり、神の家族なのである。またあなたがたは、使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられたものであって、キリスト・イエスご自身が隅のかしら石である。」(エペソ 2:19, 20)

義の敵は、神の建設者たちにゆだねられた仕事をやめさせるための努力に骨身を惜しまなかった。しかし神は、「ご自分のことをあかししないでおられたわけではない」(使徒行伝 14:17)。ひとたび聖徒に伝えられた信仰をりっぱに守る働き人たちが起こされた。歴史はこれらの人々の不屈の精神と英雄的な行為を記録にとどめている。使徒たちと同じように、彼らの中にもその持ち場にあつて倒れた者が大勢いたが、宮の建設は着々と進んだ。働き人は殺されたが、働きは進展した。

ワルド派(ワルデンセス)、ジョン・ウィクリフ、フス、ヒエロニムス、マルチン・ルター、ツウイングリ、クランマー、ラチマー、ノックス、ユグノー〔フランスの新教徒たち〕、ジョン・ウェスレーとチャールズ・ウェスレー、そのほか多くの人たちが、永遠に持ちこたえる材料を土台のもとにもってきた。後年、聖書配布運動に雄々しく活躍した人々、異教の地にあつて大いなる最終使命宣伝のために道を備えた人々もみな、この建設工事を助けてきたのである。

使徒の時代以来、各時代にわたって神の宮の建設はやんだことがない。幾世紀にわたる過去を振り返ってみるとき、われわれはそこに、神の宮を作り上げている生きた石が、誤謬と迷信と暗黒をつらぬいて光り輝いているのを見る。これらの尊い宝石は、永遠にわたって、ますます光彩を増して輝き、神の真理の力をあかしするであろう。これらの磨かれた石のきらめく光は、光と闇、真理の金と誤謬の鉄くずとの著しい対照をはっきり示している。

パウロもほかの使徒たちも、そのとき以来生存してきたすべての義人たちも、みな宮の建設に各々の役割を果たしてきた。だが、建築はまだ完成していない。今日生存するわれわれにも、なすべきわざ、果たすべき役割がある。火の試練に耐えられるような土台の材料— 金、銀、宝石など「宮の建物のために刻まれた」ものを集めてこななければならない(詩篇 144:12)。パウロは、こうして神のために建設をすすめる人たちに、励ましと警告の言葉を述べている。……「しかし彼自身は、火の中をくぐってきた者のようにはあるが、救われるであろう」……いのちのことばを忠実に伝え、人々を聖潔と平安の道に導くクリスチャンは、耐久力のある材料を土台に加えているのであって、神の国において賢明な建築者として誉れを受けるであろう。(患難から栄光へ下巻 306, 307)

7月30日

教会はどんな障害にも勝利する

「弟子たちは出て行って、至る所で福音を宣べ伝えた。主も彼らと共に働き、御言に伴うしるしをもって、その確かなことをお示しになった。」(マルコ 16:20)

キリストが弟子たちをつかわされたように、今日も、主はご自分の教会の信者たちをつかわされる。使徒たちに与えられていたのと同じ力が彼らのために与えられる。神を自分たちの力とするとき、神は彼らと共に働いて下さり、彼らの努力はむなしくなることはない。彼らが携わっている働きは、神が印を押されているものだというのを、彼らに認識させよう。

神はエレミヤに言われた、「あなたはただ若者にすぎないと言ってはならない。だれにでも、すべてわたしがつかわす人へ行き、あなたに命じることをみな語らなければならない。彼らを恐れてはならない、わたしがあなたと共にいて、あなたを救うからである」。それから主はみ手を伸べて、しもべの口につけ、言われた、「見よ、わたしの言葉をあなたの口に入れた」(エレミヤ書 1:7～9)。そして神は、われわれが、神の聖なるみ手がくちびるに触れたことを感じながら、与えられたみことばを語るために出て行くようにと命じておられる。

キリストは教会に神聖な責任をお与えになった。教会員はそれぞれ、神がその恵みの富と、計り知れないキリストの富とを世にお伝えになる器とならねばならない。世の人々に、キリストのみたまと品性をあらわす器ほど、キリストが望んでおられるものはない。人間を通して救い主の愛があらわされることほど、世が必要としているものはない。全天は、神がキリスト教の力をあらわすことがおできになる男女を待っている。

教会は、真理を宣べ伝えるための神の機関であって、特別の働きをする力を神から与えられている。もし教会が神に忠実であり、神のすべての戒めに従うなら、教会には神の計り知れない恩恵が内住するであろう。教会が真実に

神への忠誠をつくし、イスラエルの神、主をあがめるとき、どんな勢力もこれに対抗することはできない。

神とそのみわざに対する熱意が弟子たちを動かし、偉大な力を発揮して福音をあかしさせた。われわれも同じ情熱を心に燃やし、あがないの愛の物語を、キリスト、しかも十字架につけられたキリストの物語を語る決意をすべきではないだろうか。救い主の来臨を待ち望むばかりでなく、これを早めることがすべてのクリスチャンの特権である。

教会が世に従うことをやめて、キリストの義の衣を着る時に、教会の前には、輝かしい栄光の日の夜明けがある。教会への神の約束は、永遠に堅く立つであらう。神は教会をとこしえの誇り、代々の喜びとなさる。……神の使命が反対に会うと、神はその使命が一層大きな感化を及ぼすように、それに力をお加えになる。こうして聖なる力を備えた真理は、どんな堅固なとりでもつきぬけ、どんな障害にも勝利するのである。(患難から栄光へ下巻 307～310)

7月31日

教会は倒れない

「その日にはイスラエルの残りの者と、ヤコブの家の生き残った者とは、もはや自分たちを撃った者にたよらず、真心をもってイスラエルの聖者、主にたより、残りの者、すなわちヤコブの残りの者は大能の神に帰る。」(イザヤ 10:20, 21)

幻のうちに、わたしは恐るべき戦闘にある二つの軍を見た。一つは世の記章を帯びた旗印によって導かれていた。もう一方はインマヌエルの血染めの旗印によって導かれていた。旗印に次ぐ旗印がちりの中に引きずられ、主の軍から隊に次ぐ隊が敵に連なり、部族に次ぐ部族が敵の陣営から戒めを守る神の民に加わった。中空を飛ぶ御使が、多くの人々の手にインマヌエルの旗印を置く傍ら、力強い将軍が大声で叫んだ。「隊列に加われ。神の戒めとキリストの戒めに忠実な者にその持ち場につかせよ。彼らのうちから出て行って、分離せよ。」……

戦いは激しくなった。勝利は両者の間で揺れた。今や十字架の兵士たちは、道を明け渡し、「旗手は倒れる」ばかりである(イザヤ 10:18 英語訳)。しかし、彼らの一見後退と見えることは、より優位な立場を獲るために過ぎない。喜びの叫びが聞こえる。キリストの兵卒たちが、それまで敵によって征服されていた要塞の城壁の上に旗印を打ち立てるとき、神への賛美の歌声が上がり、御使の声が歌に和する。わたしたちの救いの将は戦いを命じ、ご自分の兵士たちに援軍を送られる。このお方のみ力は力強くあらわされ、彼らを門へ向かって進軍するように励ます。このお方は彼らを一步一步、勝利から勝利へと導かれるときに、彼らに義のうちに恐るべきことをお教えになった。

ついに勝利が得られる。「神の戒めとイエスの信仰」と記された旗印に従う軍は、栄光に輝いて勝利したのである。(教会への証 8 巻 41)

わたしたちの世には、多くの教理の流れがある。何千何万を数える宗教の

流れがあるが、神の銘と印を帯びたものは一つだけである。人の宗教と神の宗教がある。わたしたちは自分の魂を永遠の岩に固定させなければならない。

.....

サタンは欺くために自分の奇跡をおこなうであろう。彼は自分の権力を最高のものとして打ち立てるであろう。教会は倒れんばかりに見える。しかし、それは倒れない。シオンにいる罪人たちがふるいわけられる一貴重な麦からもみ殻がわけられる——方で、教会は生き残る。これは厳しい試練であるが、それでも行われなくてはならない。小羊の血と自分たちの証の言葉によって勝利したもの以外は、だれも忠実で真実な者、罪のしみもしわもなく、その口に偽りのない者として見出されることはない。わたしたちは自己の義を脱ぎ、キリストの義の武具をまとわなければならない。(セレクト・メッセージ 2 巻 379, 380.)

研究 13

三重のメッセージ



第二天使のメッセージ

Part 5

ぶどう酒とバビロンの娘たち

「わたしたちはこの墮落した時代に、あらゆる種類の混乱させる詭弁に反対する立場を維持しなければならない。今は誤謬がうわべを飾って、あまりにもしつかりと真理と交じり合っているために、聖書が人間の伝統と神のみ言葉の間に引かれた区別によく親しんでいない人々にとっては、真理を誤謬から見分けることがほとんど不可能な時代である。この時代には「ある人々は、惑わず霊と悪霊の教とに気をとられて、信仰から離れ去るであろう」とはつきり述べられてきたのである。」(ビュー・アンド・ハルド 1894年1月9日)

「バビロンは、「淫婦どもの母」であると言われている。その娘たちとは、彼女の教義と言い伝えを重んじてその例にならい、世との不法な同盟を結ぶために、真理と神の是認とを犠牲にする諸教会の象徴でなければならない。バビロンが倒れたことを宣言する黙示録 14 章のメッセージは、かつては純潔であったが腐敗するに至った宗教団体に適用されねばならない。」(各時代の大打闘下巻 84)

ぶどう酒とは、それによって教会が地上の国々を酔わせてきたものです。このぶどう酒が指しているものはただ一つであって、偽りの教理以外の何ものでもありません。この淫婦は、地上の権力との違法な結合の結果、聖書の純粋な真理を墮落させてきました。そして、ぶどう酒、つまり彼女の偽りの教理によって、国々を酔わせてきたのです。聖書の真理を彼女がどのように墮落させてきたか、例をいくつかあげれば十分でしょう。

1. 主の来臨前の平和と繁栄の千年紀という教理。教会ののろいとなってきた異端の中でもこれほど多くの魂を破滅させてきた教理は他にないでしょう。
2. バプテスマの儀式の堕落。バプテスマにおいて水に沈めることは、神によって承認された主の埋葬と復活を記念するものです。これがふりかけたり、注いだりすることに変更され、ただ一つのこと、すなわち人間の愚かさや憶測を記念するのにお似合いのものになってしまいました。
3. 第四条の変更。異教の祭りの日であった日曜日が、教会によって主の安息日と取り替えられてしまいました。聖書は、聖別された主の安息日は神によって承認されたエホバの休息の記念であり、創造のみわざに由来していることを明白に教えています。しかし、教会はこれを週の第一目に変更し、それをわたしたちの主の復活の記念日としてしまいました。
4. 魂は生来不死であるという教理。これは異教の神話に由来するもので、異教からの著名な改心者であり、「教会の父祖たち」となった人々の媒介によって、教会に持ち込まれました。この教理は人間の最後の敵である「死」を、永遠に続く喜びへの門とし、復活をさほど重要でないものとしてしまいました。これが近代の心霊術の基盤となっています。
5. 時と空間の境界を超えた聖徒たちの嗣業という教理。このおとぎ話によって、多大な人々が新地における永遠の王国という聖書的な見解に背を向けてきたのでした。
6. 霊的な再臨。大多数の宗教教師や現代の解説者たちが、マタイ二四章に明らかにされているキリストの再臨はエルサレムの滅亡時に起こったのだとし、またキリストは人が死ぬといつでも二度目に来られるという見解をあからさまに支持していることはよく知られています。
7. 最後に、ちりにまで低められた信心の標準。これは、多大な人々が「主よ、主よと言う者が、みな天国にはいる」と信じ込むようになるまで、伝えられてきました。この証拠としては、わたしたちはほとんどすべての墓石や葬儀に注意を払うとわかります。

神は教会に世の光となることを任じられました。そしてそれと同時に、このお方のみ言葉が教会の光となるべきことをお定めになりました。しかし、教会が自分に委託されたものに対して不忠実になり、福音の純粋な教理

を墮落させるとき、当然の結果として、世は教会の偽りの教理によって酔わせられることとなります。地上の国々が現在、そのような状態であることは、否定できないほど明らかです。世は富と誉れを追い求めて酔いしていますが、責任は教会にあります。なぜなら、主が厳しく禁じられたことを教会が認可し、世に対して模範を残しているからです。もし教会がその偽りの教理というぶどう酒によって世を酔わせていなかったならば、聖書の率直な真理は、大衆の思いを力強く動かしたはずですが、しかし世は、絶望的なまでに、バビロンのぶどう酒に酔っているかのようです。「人間のいましめを教として教え、無意味にわたしを拝んでいる」(マタイ 15:9)。

純粋な教理

「そこでイエスは彼らに答えて言われた、わたしの教はわたし自身の教ではなく、わたしをつかわされたかたの教である。」(ヨハネ 7:16)。

「靈的暗黒の時代に神の教会は、山の上にある町のようなものであった。各時代にわたり、各世代を通じて天の高潔な教えは教会の中で明らかになってきた。」(患難から栄光へ上巻 4)

「純粋な教理が失われてきた。その結果、真理だけがあるべき領域を誤謬が奪った。神のご要求は見失われている。道徳的な暗黒を消散させるためになしうことはすべてなすべきである。」(ビュー・アノド・ハルト 1898年7月26日)

聖書の教理

「さまざまな違った教によって、迷わされてはならない。」(ヘブル 13:9)

「わたしは、良い教訓を、あなたがたにさずける。わたしの教を捨ててはならない。」(箴言 4:2)

「福音の純粋な教理は、決してそれを受け入れる者の品位をおとしめることはない。」(教会への証 7巻 67)

「神は、どの時代においても、世俗と教会の罪を責めるために、ご自分のしもべたちを遣わされた。しかし人々は、自分たちに対し耳ざわりのよいことが語ら

れることを望み、純粋な、ありのままの真理は受け入れないのである。多くの改革者たちは、その仕事を始めたときに、教会と国家の罪を非難するのに、きわめて慎重を期した。彼らは、真のキリスト者の生活の模範を示すことによって、人々を聖書の教理に引きもどそうとした。しかし、神の霊がエリヤに臨み、悪王と背信の民を譴責させられたのと同じように、彼らにも神の霊が与えられた。彼らは、聖書の明白な言葉、すなわち、これまで伝えることを躊躇していた教理を、伝えずにはおれなくなった。彼らは、真理と、魂をおびやかす危険とを、熱心に宣言せずにはおられなくなった。彼らは、その結果がどうなろうと、主が彼らに与えられたその言葉を語った。そして、人々はその警告を聞かなければならなかった。」(各時代の大家闘下巻 375, 376)

心の思いと意図とを見分けるもの

「神の言は生きていて、力があり、もろ刃のつるぎよりも鋭くて、精神と靈魂と、関節と骨髄とを切り離すまでに刺しとおして、心の思いと志とを見分けることができる。」(ヘブル 4:12)

「天の神は、純潔で人を高め高尚にする真理と、人を誤り導く偽の教理との間に、明確な一線を画しておられる。このお方は罪と頑迷をその正しい名で呼ばれる。このお方は、こなれていないしつくい覆いで、悪い行為を飾ることはなさない。」(セクレット・メッセージ 1巻 175)

聖書は品性を改変する大きな能力である

「真理によって彼らを聖別して下さい。あなたの御言は真理であります。」(ヨハネ 17:17)

「聖書は、品性を改変する大きな能力である。「真理によって彼らを聖別して下さい。あなたの御言は真理であります」とキリストは祈られた(ヨハネ 17:17)。神のことばを学んで従うならば、それは、心の中で活動を始め、すべての清くない性質を征服する。また、聖霊が降下して、罪を指摘する。すると、心の中に生じた信仰は、キリストに対する愛によって活動しはじめ、からだも心も魂も、すべてをキリストのかたち的一致させるのである。こうして神は、み心を行なうため

にわたしたちをお用いになるのである。与えられた力は、内から外へと作用して、わたしたちに伝えられた真理を他に伝えさせるのである。」(キリストの実物教訓 74)

神の律法への服従が聖化である

「神の律法への服従が聖化である。魂におけるこの働きに関して、誤った考えを持っている人々が多くいるが、イエスはご自分の弟子たちが真理を通して聖化されるようにと祈られ、次のように付け加えられた。「あなたの御言は真理であります」(ヨハネ 17:17)。聖化とは瞬時の働きではなく、服従が継続的であるように、漸進的な働きである。サタンがその誘惑を持ってわたしたちに迫ってくるかぎり、自己に勝利するための戦いは、繰り返し、繰り返し戦われなければならない。しかし、服従によって、真理は魂を聖化する。真理に対して忠実である人々は、キリストの功績を通して、生活上のさまざまな状況に左右されてきた品性のすべての弱さに勝利するようになる。」(信仰と行い 85)

バビロンのぶどう酒

「ぶどう酒とは何であろうか。バビロンの偽りの教理である。バビロンは世に、第四条の安息日の代わりに偽りの安息日を与えてきた。そしてバビロンは、サタンがはじめにエデンでエバに対して語ったのと同じ偽り一魂は生来不死であると繰り返してきた。バビロンは多くの同類の誤謬を広く遠方にまで広め、「人間のいましめを教として教え」ている。」(SDA バイブル・コメント [E.G. ホット・コメント 7 巻 985])

「倒れた、大いなるバビロンは倒れた。その不品行に対する激しい怒りのぶどう酒を、あらゆる国民に飲ませた者」(黙示録 14:8)

「バビロンに対して宣告された大罪は、「その不品行に対する激しい怒りのぶどう酒を、あらゆる国民に飲ませた」ことである。バビロンが世界に提供するこの杯は、バビロンが地上の勢力者たちと不法な関係を結んだ結果受け入れた、偽りの教義を表わしている。世を友とすることは、その信仰を腐敗させる。そして一方バビロンのほうは、聖書の明白な言葉に反対する教義を教えて、世に腐敗的

影響を及ぼすのである。」(各時代の争闘下巻 90)

「バビロンのぶどう酒は、欺瞞的な偽物の安息日を、主なるエホバが人間のために祝福し聖別された安息日よりも高めている。〔バビロンのぶどう酒とは〕また、魂の不死である。これらの種類の異端や真理の拒否が、教会をバビロンに変えた。諸王や商人、役人、宗教指導者たちはみな、墮落した調和のうちにある。」(セリフ・メッセージ 2 巻 68)

「バビロンは有毒な教理、すなわち誤謬のぶどう酒を助長してきた。この誤謬のぶどう酒は、魂の生来の不死、悪人の永遠の責め苦、ベツレヘムでお生まれになる前のキリストの先在性の否定、神の聖なる聖別された日以上に週の第一日目擁護し高めることといった偽りの教理からなっている。これらの同類の誤謬は、さまざまな教会によって世に提示されている。」(伝道 364)

「この永遠責め苦説は、バビロンがすべての国民に飲ませる憎むべき酒といわれている偽りの教理の一つである。」(各時代の争闘下巻 285)

「世界がバビロンの酒に酔いつぶれていさえしなければ、多くの者は、神の言葉の明白で鋭い真理によって心を打たれ、改心することであろう。しかし、宗教的信条が非常に混乱し矛盾しているように思えるので、人々は何を真理として信じてよいのかわからずにいる。世界が悔い改めないのは、教会の責任である。」(各時代の争闘下巻 91)

「バビロンはその不品行の怒りのぶどう酒をあらゆる国民に飲ませる。すべての国が巻き込まれるようになる。」(SDA バイブル・コメント [E. G. ホット・コメント] 7 巻 949)

バビロンの娘たち

「その額には、一つの名がしるされていた。それは奥義であって、「大いなるバビロン、淫婦どもと地の憎むべきものらとの母」というのであった。」(黙示録 17:5)

「黙示録 17 章には、バビロンは女、すなわち聖書の中では教会の象徴として用いられている比喻で表されている。貞節な女は純潔な教会をあらわし、不道徳な女は背信の教会を表す。バビロンは淫婦であると呼ばれている。そして預言者は彼女が聖徒や殉教者たちの血に酔いしれているのを見た。このように描写さ

れているバビロンとは、ローマ、すなわち非常に残酷にキリストに従う人々を迫害してきた背教の教会を表している。しかし淫婦であるバビロンはその墮落の模範に従う娘たちの母である。こうしてローマの教理と伝統に固着し、その墮落が第二天使のメッセージの中で宣告されているローマの世俗的な慣習に従う諸教会が表されている。」(預言の霊 4 卷 233)

「バビロンは、『淫婦どもの母』であると言われている。その娘たちとは、彼女の教義と言い伝えを重んじてその例にならぬ、世との不法な同盟を結ぶために、真理と神の是認とを犠牲にする諸教会の象徴でなければならない。バビロンが倒れたことを宣言する黙示録 14 章のメッセージは、かつては純潔であったが腐敗するに至った宗教団体に適用されねばならない。このメッセージは審判の警告に続くものであるから、最後の時代に発せられるものでなければならない。したがって、これは、ローマ・カトリック教会だけに当てはまるものではない。なぜならば、この教会は、幾世紀にわたって倒れた状態にあったからである。さらに、黙示録一八章では、神の民はバビロンから離れ去れと呼びかけられている。この聖句によれば、多くの神の民がまだバビロンにいななければならない。今、キリストに従うものの大部分は、どの宗教団体に属しているであろうか。言うまでもなく、プロテスタント各派の諸教会である。これらの諸教会は、その出現の当初にあっては神と真理のために崇高な態度をとり、神の祝福にあずかった。不信仰な世の人々でさえ、福音の原則を信じることに伴う恵みを認めずにはおれなかった。預言者はイスラエルに次のように言った。「あなたの美しさのために、あなたの名声は国々に広まった。これはわたしが、あなたに施した飾りによって全うされたからであると、主なる神は言われる。」しかし、彼らも、イスラエルののろいであり滅びであったのと同じ欲望—神を信じない人々の習慣に習い、彼らとの交わりを求めようとする欲望—によって墮落した。「あなたは自分の美しさをたのみ、自分の名声によって姦淫を行」なった(エゼキエル書 16:14, 15)。

プロテスタント教会の多くは、ローマの例にならぬ「地の王たち」と不法な関係を結んでいる。国教会は俗権と提携することによって、また他の教派は、世俗の歓心を求めることによって。そこで、この「バビロン」(混乱)という言葉は、それぞれ自分たちの教義は聖書に基づいたものであるといいながら、ほとんど無数の教派に分かれ、互いに衝突する信条と理論をもったこれらの諸団体に、まことによく当てはまるのである。」(各時代の争闘下巻 84, 85)

(84 ページの続き)

建設者たちはおこって、お互(たが)いを責(せ)めました。計画全体は、争いと流血(りゅうけつ)のうちに分断(ぶんだん)されました。事業は悲惨(ひさん)な結果になってしまいました!ここから「バビロン」という名前が来たのです。それは「混乱」という意味です。

それとは反対のことが神様の子らの間では見られます。わたしたちはこの世というバビロンを後にするように招かれています。自分自身の意志ややり方を行うために反逆するためではなく、神様に従って協力するために招かれています。教会が礼拝や仕事のために集まるとき、わたしたちは共に働きます。美しい調和と秩序がゆきわたっています。各自に自分の仕事や義務(ぎむ)があります。もしわたしたちが何を成し遂げようとしているのか、まただれがどの仕事をすべきなのかを心にとめていなかったら、結果は、バランスがくずれて、混乱です。

教会が4年ごとに世界規模(せかいきぼ)の大きな会議をもつ目的がこれです。そこでわたしたちは自分たちがわかちあうすばらしい信仰と、自分たちが信じる真理を思い起こすことができます。わたしたちはこの地上においてさらに永遠の福音をかかげ、広めるための計画を決めることができます。そしてだれが何をすべきか、どこでそれをすべきかを美しくかきこい方法で考え出すことができます。そのとき、キリストがわたしたちに任命(にんめい)された事業、すなわち全世界に出て行って、すべての被造物(ひぞうぶつ)に福音を宣(の)べ伝えるという大きな任務(にんむ)はこのお方のみ名に栄光(えいこう)と誉(ほま)れを帰(き)すのです。そしてわたしたちは助けとなることに大きな喜びを感じるのです!

使徒パウロは、次のように説明しています。「植える者と水をそそぐ者とは一つであって、それぞれその働きに応じて報酬(ほうしゅう)を得るであろう。わたしたちは神の同労者である。あなたがたは神の畑であり、神の建物である。神から賜(たま)わった恵みによって、わたしは熟練(じゅくれん)した建築師(けんちくし)のように、土台をすえた。そして他の人がその上に家を建てるのである。しかし、どういうふう而建てるか、それぞれ気をつけるがよい。なぜなら、すでにすえられている土台(どだい)以外のものをすえることは、だれにもできない。そして、この土台はイエス・キリストである」(コリント第一 3:8-11)。

キヌアの豆乳ドリンク

〔材料〕

キヌア	1/3カップ
キャロブ (いनाご豆粉末)	大さじ1
メープルシロップ	大さじ3
水	1カップ半
豆乳	2カップ

〔作り方〕

1. キヌアを水で4分ほど煮ます。
2. 火にかけたまま、豆乳とメープルシロップとキャロブを加えます。
3. キャロブが混ざったら、できあがり。

季節によって、冷やしても、温めてもおいしいスイーツドリンクです。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)



【公開放送】 <http://www.4angels.jp>

聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



調和 (ちょうわ) のうちに 建 (た) てる

「わたしたちは神の同労者 (どうろうしゃ) である。あなたがたは神の畑であり、神の建物である。」 (コリント第一 3:9)

イエスが人の子としてこの地上 (ちじょう) で生活されたとき、このお方は物 (もの) を建てる大工 (だいく) さんでした。全宇宙 (ぜんうちゅう) を設計 (せっけい) し、建築 (けんちく) されたそのお方が、どうやってこの小さな世界に、建てるために来られたか、考えるとおどろきです! 天で高められた司令官 (しらいかん) であったお方が、わたしたちの間で生き、働くためにご自分の王冠 (おうかん) をおいてくださいました。このお方はご自分の地上におけるキャリアを、大工さんの作業場でヨセフと共に働くことによって始められました。そこでこのお方はわたしたちに、何か良いことをなしとげるためには、どうやってほかの人々と気持ちよく協力 (きょうりょく) するか、単純な模範 (もはん) を残されました。

どんな事業 (じぎょう) でも成功 (せいこう) させるためには、それにたずさわる人々は、おたがいに気持ちよく助けあい、共に働かなくてはなりません。バベルの塔 (とう) で何が起こったか覚えていますか。言葉が乱 (みだ) されたとき、てっぺんでレンガを積み上げていた人々は、下で働いて

いた人々と共に働くことができなくなりました。人々はそれぞれの場所に配置 (はいち) されていて、各自 (かくじ) が必要な材料 (ざいりょう) や働きに関する別の指示 (しじ) を聞いて、自分の下にいる人に伝えました。しかし、伝言はごちゃまぜになり、間違 (まちが) った材料が送られました。混乱 (こんらん) と失望 (しつぼう) が続きました。全部の仕事が中断 (ちゅうだん) されました。もはや調和も協力もなくなりました。

